

The Bulletin of the Faculty of Global Communications

COSMOS



GCは今、2021

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部機関誌

No.11

2022年3月



cosmos ['kɒzmɒs]

—①よく秩序づけられた宇宙。思考体系。

②キク科の観葉植物。

……花言葉 「調和」

cosmo- ['kɒzməʊ]

—（接頭語） 世界や宇宙に関する。

私は一つの可能性です。

私たちは無限の可能性です。

限り無く広がる世界の中で

調和をもたらす存在に成らんことを願い

これを題名とします。

References

Oxford Dictionaries. (<http://oxforddictionaries.com/definition/cosmos>)

躍挑輝笑
自多実

共 Cosmos

No.11

新樂
結進
生友
道繫
夢

勇活
築信
会

— これらの漢字は、GCの学生たちが、
グローバル・コミュニケーションを
漢字一文字で表したものです。—

はじめに

この度はグローバル・コミュニケーション学部発行の学部機関誌 *Cosmos* 第11号を手にとっていただき、誠にありがとうございます。*Cosmos* はより多くの方々に本学部について知ってもらうことと、学部内への情報発信を目的として、学部開設以来、毎年発行されています。

グローバル・コミュニケーション学部は現代のグローバル社会で活躍できる学生を育成することを目的としています。学生はそのために必要な、様々な国際社会・文化・政治的背景への理解を深めることができるように日々精進しています。さらに、本学部では理解をアウトプットへとつなげるためのコミュニケーション能力を養うことができるカリキュラムもそろっています。

今回の *Cosmos* 制作にあたり、私たちは「共」という字をテーマにして活動してきました。この字には「友と共に、コロナと共に生きながら楽しめる学生生活」という意味が込められています。新型コロナウイルスで大きく環境が変わった今、困難に感じることや、思いとどまってしまうこともあると思います。しかし、学生たちは、この状況だからできることに目を向け、仲間と共にニューノーマルな時代を受け止めて成長していくことが大切であると考えています。そして、そのような本学部のすてきで懸命な学生たちの姿勢をこの *Cosmos* を通し、伝えていきたいと考えました。

最後に、この *Cosmos* 制作も、周りの方々の温かいご協力があったからこそ実現することができました。忙しい中、取材に応じてくださった在学生、OB・OGの方々、アドバイスや記事の校閲をしてくださった先生、事務室の方々、そして一緒に制作に携わった制作メンバー、関わってくださった全ての方に、メンバー一同、深く感謝申し上げます。*Cosmos* 第11号もまさに、多くの方々と「共」に創り上げたものであるといえるでしょう。

それでは、最後までどうぞお楽しみください。

英語コース 池田 由芽

Cosmos 第11号

目次

コース紹介	4
GC 学部ゼミ紹介	10
Study Abroad 体験インタビュー	18
日本語コース：留学生の声	34
seminar project プロジェクト紹介	41
オープンキャンパス：Welcome to GC !	45
授業外活動報告	48
・外国人児童生徒の日本語学習支援	
・インターンシップ体験記	
Zoom ひろば企画～ GC 学部交流会～	52
国内交換留学	
・国内交換留学インタビュー	55
・早稲田大学へ ～国内交換留学体験記～	57
OB・OG インタビュー	59
・OBOG 座談会	64
2021年度卒業研究タイトル一覧	68

コース紹介

各コースの1年生が GC 学部の3コースをそれぞれ紹介します！

英語コース

1. 1 年生春学期の時間割

	月	火	水	木	金
1	Communicative performance 1-2	Preparation for Toeic-3			Communitive skills in Chinese1-1
2	★スポーツ・パフォーマンス 1-121		Progress in Reading1-1	Introduction to English-Speaking Cultures	
3		Communitive skills in Chinese 1-1			Communicative performance 1-2
4	Introduction to Global Communication	★建学の精神とキリスト教 -1	Communitive skills in Chinese1-1	Progress in Writing1-1	Threshord in Seminar1-2

★は全学年共通教養教育科目（一般教養）

時間割のほとんどが必修科目で構成されています。GCE の第2言語は週に3回もあるので、他の学部と比べると必修科目の割合も多いところが特徴だと思います。

2. 授業紹介

○ Communicative Performance

英語コースの多くの学生が楽しいと感じている授業は Communicative Performance です。この授業は基本的に全て英語で行われます。担当の先生によって授業のスタイルは少し変わってきますが、私のクラスでは教科書に沿って、スピーチやプレゼンテーションで取り入れると効果的な発表方法や表現、フィジカルな動きなどについて学び、実際にスピーチやプレゼンテーションを行って学んだことを実践しました。これらを通じてかなりのコミュニケーションスキルを身につけることができます。スピーチやプレゼンテーションの内容準備はパワーポイントを作成をしなければいけないときもあり、とても大変で時間のかかる作業ですが、たくさん練習する中で今後社会に出たときにも役立つだろうコミュニケーションスキルがついてきているように感じます。また、ペアになってプレゼンテーションを準備することもあり、たくさん時間をかけて協力しながら作業する中で、とても大変ですがスピーチやプレゼンテーションを終えたときに大きな達成感を味わうことができます。週に2回ある授業で、1クラス10人程の少人数で行う授業なので同じクラスのメンバーとかなり仲が深まります。だから、大人数の間ではなかなか発言する勇気が出ない人でも積極的に参加することができる授業だと思います。私も実際に自分の英語力に自信がなく、最初の授業ではほとんど発言できず、ただ他の人が発表す

るのを聞いていただけでした。しかし、授業を重ねてコミュニケーションスキルを身につけ、また、クラスメイトとの絆が深まることによって今では積極的に授業に参加できるようになりました。普段の学校生活でも Communicative Performance で一緒にメンバーとはいつも助け合ったり、ふざけあったりしてとても楽しく過ごしています。

○ Progress in Reading1-1

一方で、Reading の授業は多くの方が大変に感じています。テキストの中の言語、社会問題、教育など様々なトピックについての英文を読むことで読解能力を身につけていく授業です。20人前後のクラスの中でペアまたはグループに分けられ、教科書の担当を回していきます。毎回、担当の人を中心に意見を発表しあったり、ディスカッションを行ったりします。かなりの分量の英文を授業までに読み込み、予習する必要があるので少し大変です。しかし、1年間を通して様々な英文に触れることになるため、英語のリーディング力は着実に養われてきていると思います。また、自分も授業をリードする側になることで別の視点から英文を見て学びを深めることができます。そしてプレゼンテーション力や教える力もかなりつきます。

3. コース別内容

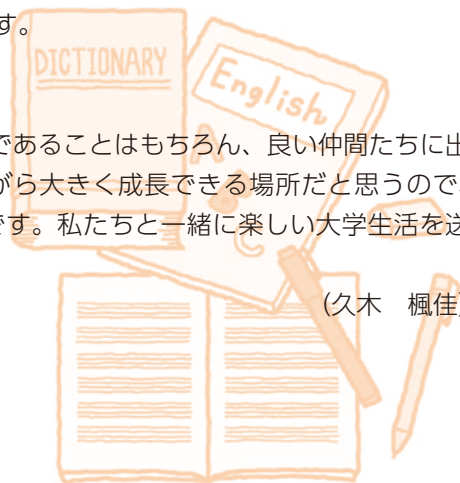
英語コースの1年生は多くの必修授業を通して、2年次の留学に向けて英語力を強化していきます。週に一度、留学関係のことを学ぶ授業があることも英語コースならではののではないかと思います。その授業では留学に向けて行く国を決めるために学校についてリサーチしたり、行き先の国を決めた後はその国文化について学んだりします。これらの準備を通じて留学へ行く心の準備もでき、その国について十分な知識を身につけることで留学がより安心で、充実したものになると思います。

英語コースの雰囲気について紹介すると、コース全体で80人ちょっとの少人数であることに加え、必修科目も多く、ほとんどがクラス制なので高校のような和気あいあいとした雰囲気です。正直、大学でこんなにたくさんの良い友達に恵まれるなんて思っていませんでした。空きコマにはみんなと一緒にご飯を食べたり、課題をしたりと他の学部の学生に比べて友達と学校で過ごす時間がたくさんあるのも特徴かなと思います。仲間がいるおかげで学校がより充実してとても楽しいです。みんな個性豊かでユニークで学校に行けばいつもたくさん元気をもらえます。とてもおもしろくいつもふざけ合っていますが、まじめで困ったときはお互いに助け合うことができる頼もしい人ばかりです。学校以外でもたくさん助けてもらっているなと思います。自主性や積極性を大切にしている学部で、みんな進んで意見をだしたりするととても活気のある授業が多いです。日々刺激し合いながら共に成長できるととてもいい環境です。

4. 受験生へのメッセージ

充実した授業内容や1年間の留学プログラムが魅力的であることはもちろん、良い仲間たちに出会えるととても良い環境です。仲間たちと切磋琢磨しながら大きく成長できる場所だと思うので、充実した日々を過ごしたいという方にぴったりの学部です。私たちと一緒に楽しい大学生活を送りましょう！

(久木 楓佳)





中国語コース



1. 1年生春学期の時間割

	月	火	水	木	金
1	英語 コミュニケーション	基幹中国語 リスニング	基幹中国語会話		
2	基幹中国語会話		基礎演習		
3	基幹中国語 ライティング	★建学とキリスト教			基幹中国語講読
4	Introduction to Global Communication	基幹中国語講読			英語ライティング
5					英語リーディング (上級)

★は全学年共通教養教育科目（一般教養）

2. 授業紹介

○ 基幹中国語リスニング

リスニングの授業はCDの音声を聴きながら教科書の問題を解いていきます。中国語を聴き取るのは難しいですが、週に2回あるこの授業で少しずつ理解して聴けるようになります。毎週予習や復習、小テストがありとても大変ですが、2年生時のSAに向けて中国語に耳を慣らし、しっかりと聴く力を身につけることができます。

○ 基幹中国語会話

この授業は週に2回あり、基礎的な発音から日常会話の表現を練習する大切な授業です。1クラス約10人の超少人数制で、授業中に中国語を使って会話をする機会が多く、わからないところをすぐに解決することができます。また先生との距離も近いいため、アットホームな雰囲気により実践的な中国語を身につけることができます。

○ 基礎演習

基礎演習では週に1回、中国語圏の基礎的な知識を身につけると同時に、レポートの作成方法やプレゼンテーションの方法を学びます。新書や新聞記事からレジュメを作成し、1人20分間のプレゼンテーションを行います。この授業のおかげで、中国語圏に関する歴史や文化について理解を深めることができます。

3. コース別内容

中国語コースは1学年約40人の少人数コースで、コースのみんなと仲良くなることが出来ます。周りのみんなが中国語を話せたらどうしよう、と不安に思っている方もいるかもしれませんが、9割以上の学生が大学から中国語の勉強を始めています。授業は先生1人に対し学生10～20人程度の少人数授業で、1人1人が発言する機会が多く、先生にもすぐ質問ができます。ネイティブの先生もとてもおもしろく、中国についてたくさんのことを教えてくれます。忙しい毎日を送っているGCC生ですが、休みの日には友達と遊んだりアルバイトをしたりしてとても充実しています。

4. 受験生へのメッセージ

グローバルコミュニケーション学部中国語コースは本当に毎日忙しく大変な学部です。しかし、仲間と共に助け合い、38人しかいないのですぐに仲良くなることができ、毎日充実した毎日を送っています。中国語コースの1年生は、5月頃にZoomでの交流会を行いました。夜の9時から始まり、気がつくとなんと朝の5時！いつのまにか8時間もたつほどに盛り上がりました。最初から中国語ができる人が多いんじゃないの？と思う人がいると思いますが、全然そんなことはありません。中国語を初めて学ぶ人が多いので安心してください！忙しいけれども充実している中国語コースに入りませんか？私たち一同待っています。

(近藤 朱夏・若宮 奈々)



日本語コース

1. 1年生春学期の時間割

	月	火	水	木	金
1	英語 コミュニケーション	ファーストイヤー セミナー	クリティカル リーディング		
2		アカデミック ライティング	プレゼンテーション		
3				★心理学	
4	Introduction to Global Communication		★日本の歴史	★日本語	英語リーディング

★は全学年共通教養教育科目（一般教養）

日本語コース1年生の必修科目は、午前または午後に授業が詰まっている傾向があります。2021年度は新型コロナウイルスの影響により、オンデマンドで行われる授業もありました。学校に行く日は、授業後の空いた時間に図書館や GC 学部の自習室で勉強をしています。2年生から自由時間が少なくなるので、将来の言語のレベル試験や就職活動のために、事前に1年生のときから準備することが重要です。必修科目以外にも興味のある他学部の科目を選んで、幅広い知識を手に入れる学生も多くいます。

2. 授業紹介

○ ファーストイヤーセミナー

この授業を私たちは「セミナー」と略して呼んでいます。内容としては、大学生活に必要な情報（大学生生活の基礎知識、履修指導の補足、大学生生活の注意事項、VPN 接続方法など）を教わっています。また、留学生である私たちが日本の大学でどのような大学生活を過ごすべきなのかを始め、先輩たちの就職活動経験談や先生からのアドバイスもいただけます。

○ クリティカルリーディング

外国語学習者に求められる能力として「書く、読む、聞く、話す」が最も重要だと思われます。これらの中でも、この授業では主に「読む」能力にフォーカスを当てています。本を読み、それに関する問題を解いたり自分の感想を書いたりします。その後、それぞれのグループに分けられ、自分なりの感想や意見交換をします。「読む」能力が中心になっていますが、同時に「話す」能力も成長できる科目です。

○ アカデミックライティング

この授業は上記の中で「書く」能力を扱っています。高校時代までの宿題ではなく、テーマ設定からはじめて、自分の意見を証明する資料や、調査を通してレポートを書きます。また、大学のレポートの書き方（アウトライン、情報整理）や調査方法、引用についても教えていただけます。春学期には資料を中心にしてレポートを書く練習をしますが、秋学期から自分がアンケート調査を行い、それに沿ってレポート作成を進めます。

○ プレゼンテーション

最後に、この授業を通して残りの「話す、聞く」能力を磨きます。テーマを決めてそれについてのプレゼンテーションを作り、発表を行います。同級生の発表後、自分の感想を述べてから情報交換をします。自分の発表のときは「話す」能力を、友達の発表のときは「聞く」能力を成長させることができます。これらの能力を備えたら、春学期には個人発表、秋学期にはグループ発表が行われます。

○ Introduction to Global Communication

この科目は全コースの1年生が集まって行われます。各コースの先生方がそれぞれのテーマで講義をし、グループごとのディスカッション後、感想や意見などを自由に交換して発表をする科目です。

3. コース別内容

日本語コースは30人弱の小人数クラスです。多様な国籍の人々が集まっていますが、留学生という共通点もあり、お互いに母国の文化について情報交換をします。そして、自分の日本語基礎能力を再確認するチャンスが多いため、足りないところ（例えば、漢字の読み方、書き方、話す能力）をすぐ見つけて、補うことができます。

そして、少人数であることを十分に活用して先生方に個人指導はもちろん、困りごとや悩みごとなどについてもすぐ相談に乗っていただけます。授業もグループワークが多いので、クラスメイトや先生との関わりが深く、高度なコミュニケーション能力を身につけることができます。また、フィールドワークを導入した授業もたくさんありますので、日本文化に直接触れながら楽しいキャンパスライフを送っています。

4. 受験生へのメッセージ

グローバル・コミュニケーション学部の日本語コースは留学生のために設立されたコースです。もし自分が言語能力に対して自信があれば、安心して日本語コースを志望しても大丈夫だと思います。留学生が日本の大学生活に慣れるための授業内容が充実しているからです。例えば、1年生の必修科目では、論文を書く方法や発表のやり方などについての全面的なスキルを身につけることができます。現在はコロナで、留学をすること自体が大変かもしれません。しかし、自分の目標がわからない受験生たちにとって、グローバル人材を育成するグローバル・コミュニケーション学部はいい選択です。日本語と日本文化を大学で勉強し続ければ、どんな所でも役に立つと思います。

(李 基勲・趙 哲驍)



ゼミ紹介

GC 学部には現在14のゼミがあります。(英語コース :7/ 中国語コース :4/ 日本語コース :3)
1・2年生で身につけた知識をふまえ、各々が大学での学びの集大成へとつなげていきます。

質問

- ①学んでいることは？
- ②ゼミの雰囲気は？
- ③ゼミの魅力を教えてください！

●英語コース

松木ゼミ



①観光を人類学的視点から考察するというもので、なぜ人間は旅をしたいのかというテーマのもと授業が行われています。実際には、ホームページの解析をしたり、観光地についての物語（そこに行って何をする）などを考えたりしています。

②松木先生のゼミはいい意味で緩い雰囲気であるとともに、規律は保ちつつ発言しやすい空間でアットホームな雰囲気です。温厚な学生が多く楽しくやっています。それから、松木先生の小話がとてもおもしろいです！

③魅力は自分のペースで取り組めるところです。本当に適度なスピードと課題の量で、ゼミに圧迫させられる心配は無用です。でもやりがいがあります。先生もおもしろいので松木ゼミを心からお勧めします。

(黒住 宗汰)

玉井・伊勢ゼミ



①メディアにおける文化表象について学んでおり、メディアの中に隠された固定観念を批判的に読み解き、本質を見抜く力、物事を多角的に見る力を身につけることができます。春学期は民族に関するドキュメンタリーやチャリーとチョコレート工場の映画、星の王子様の小説などを題材にして、ディスカッションを重ねる中で考えを深めました。また、フィールドワークとして国立民族博物館へ行く機会もあり、展示物や展示方法に込められた意図を考察しました。

②穏やかで和やかな雰囲気のゼミです。

③担当教授が2人いてそれぞれの専門分野を学ぶため、お得感があります。また、ゼミでの学びを通して、映画やドラマを違った見方で楽しめるようになりました。

(山口 真穂)



寺西ゼミ



①寺西ゼミでは主にメタファーについて学んでいます。メタファーを通して人間が無意識のうちに形成している概念体系を理解し、それが思考に与える影響を考えています。

②授業では時事問題や各自が持ち寄ったネタについて話し合う時間があり、いつも活発な議論が行われています。毎回一人ひとりがしっかりと考えて発言し、社会の様々な物事への知見を深めることができます。

③ゼミ生の人数は比較的少ないですが、その分先生と個人的な話題を話すことも可能であり、貴重なアドバイスをいただけることもあります。

(高橋 明日香)

Uchino ゼミ



①カルチュラル・スタディーズの手法を用いて、人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する社会問題を研究しています。また、このことから得られる教訓や、それらの問題に関わる現代の政治的・倫理的な問題についても議論しています。

②ディスカッションを通して、自身の知見をもとに意見を述べる機会が多くあります。さらに、毎授業でクラスメイトの体験や考えを知ることができ、自身の視野を広げることができています。

③人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級のテーマは、私たちの日常生活における出来事に密接に関わっています。それゆえ、授業で得た新たな知識を日常生活の中で活かすことができていると実感します。

(藤田 菜摘)

竹田ゼミ



①「異文化間ビジネスコミュニケーション」を学んでいます。国際ビジネスの展開上、文化や価値観の違い、誤解がビジネス成功の妨げになることがあり、それらの要素を想定したうえで、国際ビジネスにおける効果的、かつ円滑なコミュニケーションの理論と実践について、ゼミのメンバーとの討議、ケーススタディを通じて学んでいます。グローバル人材の素地として必要不可欠な、論理的思考力と英語運用能力を高めることができます。

②授業は、メンバーの様々な意見が飛び交いながらも、和気あいあいと明るく楽しい雰囲気で行われています。

③ゼミでは、横のつながりと共に、縦のつながりがとても強く、先輩方にアドバイスをいただくことも多いです。様々な視点を持った仲間と、楽しく、お互い高めあうことができる、居心地の良いゼミです

(飯澤 寧々)

長谷部ゼミ



①認知言語学という言語学の一分野を学んでいます。実際に広告やメディア、友人どうしの会話等の言語データを用いて、話し手や聞き手の「心の働き」という観点から言葉について分析します。

②担当教授の長谷部先生が、穏やかで優しくてとてもアットホームなゼミです。いつも楽しく笑いが絶えません。授業の内容はもちろんしっかり議論しますが、ほのぼのしたおしゃべりも皆で楽しんでいます。

③コンピューターのスキルアップができるのが魅力です。私はパソコン操作に疎く、全くわかっていなかったのですが、ソフトウェアを使って言葉を分析するという、とても実践的なことを学べました。

(絹川 友梨)

中田ゼミ



①教育心理学におけるモチベーション理論を学んでいます。理論を用いながら、いかにして自分や他人の主体的な行動を促進できるか考えています。また、身近なケーススタディを通して理解を深めています。

②毎回の授業で行われる、自身の経験を基にした意見交換が活発で、興味深い意見がたくさん出ます。そのため、ゼミのメンバーの様々な価値観を知ることができます。意見に対して先生からのフィードバックもあり、先生との距離が近く、発言しやすい雰囲気になっています。

③日々の学習やアルバイトなど、日常生活の様々な場面で学んだことを活かすことができ、役立つことが多いです。日常生活を振り返る機会も多く、身近に関心を持ちやすいゼミです。

(辻 優美)

内田ゼミ



①日中近現代史・近現代日中関係史について学ぶゼミです。留学前に中国近現代史約150年の歴史をふかんし、留学後に専門的な学びを深めます。テキストと新聞記事を用いて発表・討論を行い、発展著しい中国社会を捉える眼力を養っています。

②メリハリがあり、人数も10数名であるため学生間の距離を縮めやすいです。また、担当教授の内田先生は温厚で、常に学生のことを気にかけてくださる面倒見の良い先生です。

③最大の魅力はゼミ生のつながりが縦と横ともに強い点です。定期的に行われる合同交流会では、ゼミや留学・就職活動など多方面にわたった情報共有を行います。ゼミ遠足では、同期や担当教授の意外な一面を垣間見ることができます。

(塚本 大貴)

郭ゼミ



①主に中国語の文法を扱う書籍を読みまとめます。例えば、2年生の春学期には、1年生のときに一度取り扱った書籍を、担当箇所を決め再度発表しました。また中国語で書かれた文献を訳し、まとめて発表をすることもあります。

②お互いに質問や意見を言いやすい雰囲気 of ゼミです。それは学生どうしだけでなく、私たちから担当教授にも疑問点を聞きやすいです。「コロナが落ち着いたらゼミ全体でご飯に行きたいね」と話すほど仲のいいゼミです。

③ゼミで学んだ内容が中国語の勉強に活かされやすいことです。一度授業で扱った文法でさえ、なぜそのようになるのかが、わかっていないことが多いのではないのでしょうか。中国語の文法を深く知ること、注意しないと間違えてしまう表現も正しく使えるようになります。

(新原 あまね)

中西ゼミ



①世界で中国語と呼ばれる言語が使われている国は数多くあります。私たちのゼミではそのような中国語圏の様々な問題について「ことば」という観点から考え、学んでいます。

②私たち現3年生は1年間の留学期間を終えたばかりであるため、ゼミの仲間と顔を合わせて学んだのはまだ短いですが、すでに一体感がうまれており、毎回楽しく授業に取り組んでいます。

③一人ひとりの学びに対する意欲が高く、お互いに影響し合い、高めあうことができるゼミです。
(人見 美雪)

唐ゼミ



①2年生前半は毎週中国文学を読み、課題として要旨と批評を書き授業内で発表するという内容でした。授業を通して話をまとめる力・批評する力を養うことができます。

②自分と異なる意見を否定せず、受け入れてくれる環境です。作品の解釈には答えが無いので、お互いの考えを共有し、尊重し合える雰囲気がとても良いです！

③同じ作品でも人によって解釈が違うところが本当におもしろいです。共感できる部分もあれば、「ああ、なるほど！」と驚かされることも多くあります。ただ文章を読むのではなく、物語の裏にある歴史的背景、社会や文化についても思考を巡らせながら作品を読み解いていく楽しさにも魅力を感じます。

(沖野 美南)

●日本語コース

脇田ゼミ



①脇田ゼミでは主に、日本語教育、日本語学、社会言語学のテーマについて研究します。毎週、自分の研究テーマに関する論文や本を読み、そこから学んだことや感想を授業内で共有しながら、多様な意見と知識が得られます。また、物事を多角的な観点で見る力も養えます。脇田先生は、学生たちの意見を熱心に聞いてから、それに対するフィードバックをくださり、学生は自分の意見をより積極的に話せます。

②コロナ禍により対面とオンラインで授業がおこなわれていますが、毎週どう過ごしたのかをみんなで共有しながら、生活面もケアしてもらっています。

③脇田ゼミは何よりも「読んで考える力」を大事にしている、多くの本や論文を読めることが一番の魅力だといえます。そのため、学生達の読解力も高くなり、先生から提供してもらう資料を通じて、質の高い知識も多く得られます。

(宋 抒娟)

須藤ゼミ



①須藤ゼミは「音声コミュニケーションゼミ」です。主に音声学、音韻論、会話分析という分野について理解を深めるため、それに関する論文を読み、学生それぞれが担当した論文の内容について毎週発表を進めます。

②少人数で行われ、須藤先生も学生たちに負担を与えないように優しく授業を進めてくださるため、いつでも質問することができるほどいい雰囲気です。

③日本語コースは1年生から2年生まで、2年をかけて「日本語」という言語に対する基礎を築くことができるカリキュラムです。それ以上に日本語をもっと詳しく勉強したいと思うようになったら、須藤ゼミが合っていると思います。特に、須藤先生が選んだ多様な論文を通じて知識を深めることができ、発表に対する詳しいフィードバックももらえます。

(宋 抒娟)



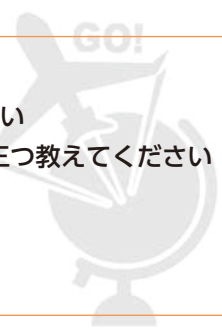
①鈴木ゼミは、自分を取り上げたいあらゆる社会課題に対する論文を探し、それを読んで一緒に討論するのが主な活動だといえます。様々な論文を読みながら、内容だけでなく、論文の構成を分析する時間もあります。そのような過程を通じて、自分はどのような社会問題に関心があり、どのような形式の論文を書きたいのかがはっきりするのです。

②多様なテーマについて、鈴木先生とクラスメートが自由な雰囲気の中で様々な意見をやりとりする時間が多いです。

③鈴木ゼミは、日本のあらゆる社会問題を取り上げて、批判的な目線で自分の意見と論理力を高めることができます。特に、クラスメートとのディスカッションを通じて、いろいろな意見を聞きながら多角的に課題を検討し、それに対する論理力と理解力を深めるため、自己成長にも役に立つのではないかと考えました。

(宋 抒娟)

1. 留学国、大学の魅力を教えてください
2. SA 中にした新しい経験、挑戦、初めて知ったことなど教えてください
3. 留学先のお気に入りのもの、場所、今日本にいて恋しいものなどを三つ教えてください
(食べ物、イベント、場所などなんでも)
4. これから留学へ行く後輩へアドバイスををお願いします！
(友達の作り方、留学前に知っておいた方がいいことなど)



Arizona State University



1. アメリカは食、人種、文化、どれをとっても日本よりスケールが大きくて、生活しているだけでそれらを感じて刺激的な日々を過ごすことができます。アリゾナでは、夏は溶けてしまいそうなくらい暑いですが、広大な土地や、そこに生えるヤシの木やサボテンなど、まったく異なる文化を体験できるうえ、ASU は生徒数も多く多様性がありますから、アメリカのキャンパスライフも存分に感じるできるのでかなりおすすめです！
2. 全く異なる文化の中で生活していると何をするにしても新鮮に感じました。道の大きさ、スーパーやコンビニでの店員の対応、現地の人とのコミュニケーションの取り方など日本と比較しても挙げだしたらキリがないくらい違いがあり、そういったことを日々意識的に感じながら生活することで今まで日本で無意識に身につけてきた常識や価値観などの固定概念がどんどん壊れていくのを感じ、他の文化を客観的に見ることができる、本当の意味でのグローバルな視点を持つことができたと感じます。

3.

- ・セドナ、グランドキャニオン

アメリカの広大な土地ならではの壮大な景色と、ネイティブアメリカンの風土が今でも大切に
残されていてアメリカの歴史も感じることができます。

- ・カリフォルニア

ロサンゼルスやサンディエゴのビーチはま
さに自分が体験したかったアメリカの雰
囲気が体験できてお気に入りの場所です。

- ・リヴァイ、ルーシー（ホームステイ先の犬）

今でも頻繁に写真を見返してはアメリカに
戻りたい気持ちになります。



4. コロナで気持ちも上がりきらないかもしれないけれども、映画やYouTubeを見たりして、留学中の生活を想像して、やりたいことをたくさん考えておくといいと思います。そうすると着いてからもアクティブに行動して英語の上達以外にもいろいろなことを吸収できる留学ができるはずです。あと、治安には気を付けてね！

(長井 翔太郎)



1. イギリス、Southampton 大学に留学していました。1番の魅力は Southampton には様々な国出身の人が多く、多文化的なところですよ。街を歩く人や学生は異なる国出身の人であふれており、スペイン料理や韓国料理などいろいろな国のレストランがありました。様々な価値観に触れられること間違いなしです！

さらに、ロンドンやオックスフォードといった有名な街に電車で行けることも魅力です。ハリーポッターやシャーロック・ホームズが好きな人は幸せだと思います！

2. 今まで経験はありませんでしたが、バトミントンサークルに参加しました。コロナの影響があり、実際に参加できた期間は短かったですが、たくさん友達を作るという目標は達成できました。悩んだら行動するべき！と学びました。



3. ロンドンが1番恋しいです。たくさんショッピングや散歩をした思い出が懐かしいです。もうひとつは、ハリーポッターです。ハリーポッターが好きという理由がイギリスを選んだ理由の一つにありました。イギリスはどこに行ってもハリーポッターのグッズが売っていたり街並みが映画のワンシーンに似ていたりしたので、毎日ハリーポッターを感じられていた日々が懐かしいです。
4. 私はやる前にちゅうちょしてしまう性格ですが、悩んだらやる！そしたらなんとかなる！と学びました。案外うまくいきます。なので、なにか悩んだらとりあえず行動してほしい！と思います。

(金子 咲)





1. カナダ

Vancouver Island University

Vancouver Island University は、Nanaimo という小さい街にあります。観光学で有名な大学です。自然豊かで、夏にはカヤックやパドルボード、ハイキング、冬にはスケートなどさまざまなアウトドアアクティビティを楽しめる場所です。島内にはスキーやスノーボードができる山もあります。自然が好きな人には最適な場所です。また、有名な観光地バンクーバーやビクトリアに近く、気軽に観光に行くことができます。(私はコロナ禍だったので頻繁には行けなかったのですが……。)

2. 私は日本語授業ボランティアと現地の日本食レストランでのボランティアをしました。どちらも初めての経験で学ぶことが多くありました。日本食レストランのお客さんの中には先住民の方もおられ、英語の発音の違いなど新たな発見が多く、貴重な経験になりました。





3. 何と言っても最も恋しいのは、ホストファミリーの子どもたちです！ときには休憩が必要なぐらい騒がしい子どもたちと1日過ごした後は、ホストマザーと一息ついていました。

恋しいイベントは、ハロウィンです。ホストファミリーの子どもたちと衣装をして近所を周り、夜は友達の家でパーティーをしました。Trick or treating は、コロナ禍ならではの仕掛けを作っている家もあり、おもしろかったです。

恋しい場所は、海辺です。島なので近くには海があり、よく友達と夕焼けを見に行きました。夕焼けがすごくきれいでした。夏にはホストファミリーとほとんど毎日海に泳ぎに行き、たくさんの思い出がある場所です。

4. 観光学に興味を持って VIU を選ばれた方は、履修登録を早めにするをお勧めします！観光学で有名なので、すぐに枠が埋まっていました。

日本語の授業ボランティアをするのもおすすめです！日本に興味のある学生が多いので、友達になりやすいと思います。いろんなことに挑戦して、留学生活を楽しんでください★

(早田 千展)



1. 私が留学していた Deakin 大学はオーストラリアのメルボルンという都市にあります。メルボルンはとにかく魅力であふれている町です。多種多様な人々を温かく受け入れてくれる優しい町であるとともに、多くのイベント、アート、そしてすてきなカフェやレストランがあります。また、メルボルンは都会ですが、少し郊外に足をのばせば、心安らぐ自然に出会うことができる点もメルボルンのすてきなところですよ。

2. 私は大学でチアリーディングサークルに入りました。コロナの影響もあり、最後までオンラインでの練習でしたが、現地の学生とともに体を動かしたり、話したりすることは毎週の楽しみでした。また、初めての寮生活では、他の国からの友人が母国の食べ物や文化、そして様々なおもしろいゲームの方法などを教えてくれて、新しい知識が増えました。今でもつながっている友人ができたことも貴重な経験です。



3. ギリシャ料理

私のホームステイ先のオークリーという場所にはギリシャ料理のレストランが多くありました。私は初めてギリシャ料理を食べて、大好きになりました。特におすすめなのは souchlaki というトルティーヤ生地にフライドポテト、ラム、野菜、ヨーグルトソースなどが入ったものです。本当においしいのでぜひ試してみてください！

ハーフムーンベイ

ハーフムーンベイは都市部から少し離れた所にあります。都市部のビーチに比べて人が少ないが故に、水も透き通っていてとてもきれいです。また、周りに壮大な岩があり、まさにメルボルンの大自然を味わえる場所ですよ！

コーヒー

メルボルンといえばおいしいコーヒーです！私は留学に行くまで、あまりコーヒーを飲んでいませんでした。しかし、初めてメルボルンでコーヒーを飲み、そのおいしさに感動しました。1日に四つのカフェでコーヒーを飲んだこともあります！それぞれのお店で味も違うので、ぜひ自分のお気に入りのコーヒーを見つける旅をしてみてください！

4. 友人作りに関して思ったのは、海外であろうが、日本で友人を作るのと同じように、まず自分から話しかけてみるということが重要だと思います。Hallo の一言だけでも、それが新しい出会いにつながります。また、留学中に悩んだり、戸惑ったりしてしまうことはあると思いますが、終わってみると、そのような時期が自分のレベルアップにつながっていたのだと感じるときが必ずきます。一人で乗り越えようとせず、周りの友人とも力を合わせていくことが留学で大切なことだと思います！

(池田 由芽)





1. Victoria University of Wellington (VUW)のあるニュージーランドは、自然豊かでハイキング、サイクリング、スカイダイビング、星空観賞、カヌー、登山、キャンプなどなど様々なアクティビティがあり、そのすべてが絶景です。スポーツができる場所も多いですし、住んでいて気持ちが良いです。また、移民が多く様々な人種が暮らしている点も魅力です。そのためレストランのレベルが高いです。例えば中華の店に行けば中国人が、タイ料理の店に行けばタイ人が経営しているのでとにかくおいしいです。西欧の文化だけでなくマオリやアジアの文化も見られ、異文化に対し抵抗がなく、留学生に優しいです。さらに、ニュージーランドに住む人々は皆優しいです。初日に大学への行き方がわからなかったとき、バスで会った女性が大学までわざわざ一緒に行ってくれたり、街中で人と目が合うと笑ったり、「Hi」と声をかけてくれたりします。日本文化が好きな人も多く話しやすいです。

大学についていえば図書館がきれいで広く設備が整っています。スタッフの方々もとても親切です。レクリエーションセンターという施設でいつでも運動できますし、友達もつくれます。また、学校でもアカデミックの授業の先生がとにかく良い人です。エッセイの相談に乗ってくれたり、銀行開設のためにわざわざ電話してくれたりもしました。タンデムパートナーに似た制度がありそこで親しい友達もできました。

2. まず、初めて会う人と遊ぶということです。日本では友達グループ内だけで遊ぶことが多いですが、留学中は初めて会う人と何かスポーツをしたり、ご飯に行ったり、イベントに行ったりと日本ではあまり経験できない交友関係が持てます。それがなぜか気まずくなく気楽で楽しいです。また、クラブ活動にも参加しました。クラブ活動と聞くと大変なイメージがあるかもしれませんが、もっとカジュアルでただただ楽しいです。私が所属したクラブでは餃子パーティーや寿司パーティーなどのイベント、スキートリップなどの大型イベントも企画しました。あと、ホームパーティー文化も新しい経験でした。



ニュージーランドではフラットで友達と住む（シェアハウスに似ている）のが一般的で、よくホームパーティーが開かれました。実際にわたしもそこに誘われて何度も参加しました。もちろん知らない人だらけで何を話しているかわからないこともよくありましたが、コミュニティに参加すればするほど知り合いが増え、いろいろなことに誘ってくれることが嬉しく楽しかったです。

3. お気に入りの場所は water front と呼ばれる、奇妙な銅像が海に向かって立っているところです。海がきれいで風が気持ち良いです。

恋しい食べ物は yumcha という中華料理。とにかくおいしくて、日本の中華よりおいしかったです。ホストファミリーのご飯も恋しいです。

恋しい場所はよく遊んだ友達の家、ホストファミリーの家、毎日乗ったバスの中、図書館、スーパーなど日常的にいつも使っていた場所がものすごく恋しいです。



4. 受け身にならず積極的に活動しよう！コミュニティを見つけて参加していると覚えてくれるし友達もできます。英語が得意ならその調子でどんどん活動すればいいし、苦手なら苦手なりにできることはたくさんあります！私も最初は語学学校で宿題が何かさえ聞き取れないときがありましたが、何度も聞き返していたらいつの間にか先生やクラスメイトが自然に助けてくれるようになったし英語も上達しました。漫画やアニメが好きならそれが話のネタになるので復習しておくことを個人的にお勧めします！周りを気にしたりする必要はありません！ある意味自己中で積極的くらいがちょうどいいです！

(松下 光太郎)



北京大学

1. 私は、中国、北京大学に留学しました。北京には、授業で習ったことのある有名な歴史的な場所がたくさんあり、日常的に足を運ぶことができるのは、本当に大きな利点となりました。また北京大学は「学びの環境」として、中国で一番と言っても過言ではありません。優秀な現地の学生や世界各国からくる留学生の多さ、授業の選択肢の豊富さ、衣食住に困らない充実した環境、自然の美しいキャンパス、どこを切り取っても本当に魅力的です！
2. 駐在員野球チームに参加したことです。高校で野球部に入っていた経験を活かし、北京駐在員野球チームに参加しました。中国で実際に働かれている社会人の方と交流することで、学生目線ではない中国・日本を見ることができました。ありがたいことに、今でもその交流は続いています。



3.

「北京大学食堂の麻辣香鍋」

麻辣香鍋とは、汁気のない辛い鍋料理のことで、本当においしい！初めて注文したとき、食堂のおばちゃんにオススメされた「中辛」を頼むとあまりの辛さに涙しました。初めての方は「微辛」をお勧めします。(笑)

「紫禁城」

中学生のときに何度か訪れたことがあったのですが、大学で学んだ知識をふまえて、もう一度紫禁城を訪れると同じ場所であるのにも関わらず、その見え方が全く異なっていたことに感動しました。

「北京大学の寮」

寮には様々な友達とのすばらしい思い出が詰まっています。放課後一緒に勉強したり、出前をとって深夜まで語り明かしたり……すばらしい思い出だけでなく、異文化と衝突し衝撃的なことも日常茶飯事で、今から思えば貴重な体験の連続でした！

4. 「日常をこなさないこと」

留学は、一定期間を過ぎると意外とその生活に慣れてきて、なんとなく毎日を「こなしている」自分がいることに気づきます。留学中は多くのチャンスにあふれています。日常ではなく非日常を追い求めて、とにかく動くこと。なんでもいいので興味があってもなくても、とにかくやってみる！そうしてこそ、自分も思ってもいなかった発見や出会いに巡り合えると思います。加油！

(熊谷 理沙子)



1. 私は、上海の復旦大学に留学していました。上海の魅力といえばやはり大都会でありビジネス街だということです。ひとつのビルに様々な国籍の人たちが出入りする光景は、日本にはない非常日常を感じられるものでした。また、復旦大学はクラス分けが細かくされており、留学生のレベルが高く、中国語学習に対しての良い刺激を受けることができました。

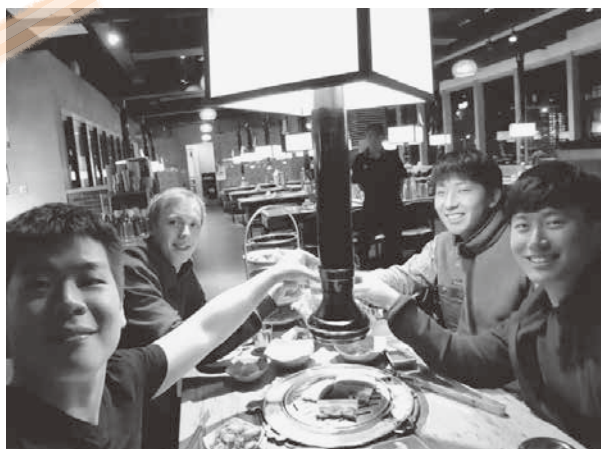


2. 上海のラグビーチームに参加したことです。地元の中国人や日本から派遣された駐在員の方々が集まるチームでした。知り合いもない、チームメイトは全員社会人、中国語もまともに話せないという状況でしたが、中国語がうまくなりたいという一心で挑戦しました。試合に出場したり、祝勝会に参加したり、とても充実した時間を過ごすことができました。



3. 红烧肉、老上海、復旦大学の食堂です。红烧肉とは日本でいうところの豚の角煮のような食べ物なのですが、正直めちゃくちゃおいしいです！特に、外灘にある老上海というお店の红烧肉は絶品で、その他の料理はもちろん、外灘の近くにあり、デートにおすすめです。(笑)

また復旦大学の食堂では、この红烧肉を約40円で食べることができるなど、すべての料理がとにかく安いので、留学する際はぜひ食べてみてください。



4. とにかく留学前からしっかり勉強をしてください！残念ながら留学に行くと勝手に中国語力が上がることはありません。友達や先生の話している内容が聞き取れず、せっかくの留学中に簡単な単語を覚えることに時間を使うのは非常にもったいないです。私はそれでとても後悔しました。ある程度の中国語の勉強をして、留学に行けば、留学期間がもっと楽しくなり、もっと高いレベルの中国語を身につけることができます！大変ですが、ぜひ今のうちから勉強をがんばってください！

(藤原 創)



1. 留学先の台湾は食事がとにかくおいしく、朝から晩まで多くの飲食店や屋台が営業しているので食べ物に困ったことはありませんでした！また、少人数クラスで授業を受けるので、質問したいけどタイミングを逃してしまった……なんてことは無かったです。クラスメイトだけでなく先生とも距離が近いことが魅力です！



2. 台湾 LGBT プライドに参加しました！台湾だけでなく世界各地からたくさんの人が、思い思いの装いで、手には性の多様性の象徴である虹色の旗やグッズを持ってパレードに参加していました。私は沿道で旗を持ちながら見ていましたが、愛に国境は無く、性別で服装は決まらないんだと感じました。

3. 私の台湾の恋しいもの、一つ目は鹽酥雞という屋台メニューです。店頭には鶏肉・野菜・きのこ類などが陳列しており、好きな具を選ぶとその場で揚げて特製スパイスで味付けをしてくれます。この特製スパイスが一度食べたらやみつきになります！



二つ目は年貨大街です。旧正月が近づくと開催されるイベントです。新年を迎えるにあたり必要な飾り付け品や、縁起が良いとされる食べ物が道の両脇にずらりと並んでいます。一面赤色の飾り付けでいかにもお祝い！といった雰囲気とずっと伝統を大切にする姿勢が大好きです。

三つ目は小琉球という台湾の南にある島です。2時間も歩けば島を一周できてしまうほど小さな島ですが、海がきれいで、時間がとてもゆっくり過ぎる感覚になります。夜は真っ暗で星が非常にきれいに見えるので非日常を味わうことができます。

4. 大学では習わない繁体字や台湾独特の言い方などありますが、1ヶ月もたてば慣れるので心配はいらないです。友達作りは、自分で留学先の大学だけでなく他大学の部活やサークルの見学に行くのもおすすめです！

(植村 美宇)



日本語コース：留学生の声

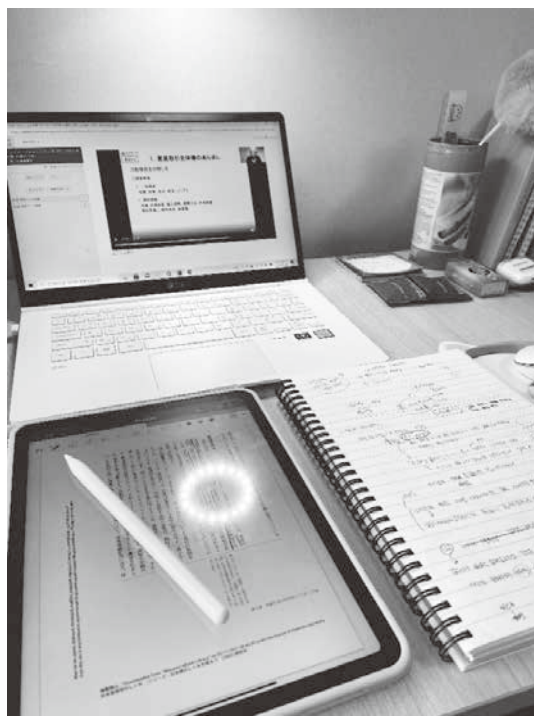
～オンラインでの受講～ 日本語コース 2年生 ^イ李 ^{チェヨン}彩榮さん

● これまでどのような形で授業を受けてきましたか？

私はコロナ事態が始まった2020年度に大学に入学しました。しかし、コロナ事態によって日本への入国が難しくなり、それに応じて私の母国である韓国で、オンラインで授業を受けるようになりました。オンライン授業には大きく二つの種類の授業があります。まず、一つ目は Zoom や Teams を利用してリアルタイムで行う授業があります。二つ目は先生が E-Class に資料をアップロードしておく、自分で講義を閲覧し、課題を提出する授業があります。

● オンライン授業のいい点は？

時間管理をより効率的にできるということがオンライン授業のいい点です。例えば、対面授業が1限目（午前9時）にあったら、準備時間が約30分、登校時間が約1時間として、授業準備まで約1時間半かかります。しかし、オンラインで授業を受けたらその1時間半を予習したり、他の科目の課題をやったり、趣味活動をしたりしながら、より効率的に、かつ生産的に消費することができます。実際に、私もオンラインで授業を受けながら、予習する時間が増え、新しく「テニス」という趣味活動も作りました。



● オンライン授業の悪い点は？

直接的に先生の声を聞くことができないということがオンライン授業の悪い点だと思います。授業内容を理解するためには、先生の声だけでなく、他のいろいろな要素が必要です。例えば、先生が重要な内容に対して強調するモーションをしたり、先生と学生が目を合わせたりするなどの要素があります。しかし、オンラインで授業を受けていたら、そのような要素は実践できません。結論的に授業内容を100%理解するのににおいて限界があります。

また、サークルや部活などの活動ができません。大学の利点といえば、勉強だけでなく、サークルや部活を楽しめるということが挙げられます。このような活動を通じて社会能力を養うことができ、さらには学業から受けるストレスを解決することもできます。しかし、私はこのような活動をしたことがなくて、惜しいです。

● コロナ禍から得たことは？

2020年から今まで、約2年間コロナ禍が続いています。地球上の多くの人々がコロナの事態によって被害を受けているのが今の状況ですが、一方でこの事態から得たこともあります。私はそれが「前に前進する力」だと思います。約2年の間に私たちの生活には多くの変化が起こりました。初めてコロナワクチンが開発され、接種したり、新しく Zoom や Teams を使って国境を越えてコミュニケーションがとれたり、コロナ禍と一緒に克服したりしながら、協同ということも学んでいます。このように、私たちは初めてコロナウィルスに接するようになり、自分なりの解決策を探し、ますます克服していています。私はこの「前に前進する力」があれば、これからどんな問題でも全て解決することができると思います。私たちはコロナの事態によって「WELCOME 時代」だという言葉もあるように、「前に前進する力」をもってより強くなった時代だと思います。

(李 彩榮^{イ チェヨン})

● 日本で挑戦したこと

私が日本にきて新しく挑戦したこととして一つのことがあります。それは、体育会のスピードスケート部に入ったことです。私は韓国の大学にも在学したことがあります。韓国の大学では、就職に役に立たない活動はあまりしないほうがよいといった雰囲気であったため、日本の大学のようにサークル・部活動について活発ではなかったのです。しかし、私は韓国の大学で就職とは関係なく、より充実した大学生活を送りたいと思いましたができませんでした。だから、私は同志社大学に入ってその夢を叶えるためにスピードスケート部に入りました。もともとフィギュアスケートをやってましたが、そのときからスピードスケートへの憧れがありました。その後、私はまだ経験がないスピードスケートという種目に挑戦するようになりました。まだ慣れていないため、自分の能力の壁にぶつかるのが日常ですが、それでも自分の限界を超えるために一生懸命にがんばっているのが充実した毎日を送っています。



● 日本で好きな場所

私が日本で最も好きな場所は二つあります。1箇所目は「鴨川」で、2箇所目は「清水寺」です。私の家は鴨川と清水寺に近いので、よく訪れることがあります。観光客が多い中、私一人で鴨川に沿って走ったり、座って本を読んだり、音楽を聴いたりしながらカモチールをしたりします。また、日本の留学生活が少し大変だなと感じるときには、私が初めての旅行で訪れた清水寺に行って、5年前に日本が大好きだった私のことを思い出したりします。近辺の有名なカフェとしては、ループトップがある「マールカフェ」というところもおすすめのスポットです。



● 後輩へのアドバイス

これからグローバルコミュニケーション学部に入學する予定である後輩さん！ようこそ。グローバルコミュニケーション学部で私は自分の限界を乗り越えるためにたくさんの挑戦をしています。何かやってみたいことがあったらぜひなんでもいいので挑戦して欲しいです。自分ができないことに挑戦できる機会は大学でしかできないことなので、社会人になる前になんでもいいので自分の才能を発見できるような旅になって欲しいです。後悔が残らないようにがんばってください！
(徐^{ソウ} 多^ダ永^{ヨン})



～社会学部との合同ゼミで日本の就職活動に対する理解が深まった～

日本語コース 3年生 宋^{ソン} 滋^{ヒョンソ}さん



(2021.11.22、新町キャンパスにて *撮影の間のみマスクをはずしました)

日本での就職を希望する日本語コースの学生たちは、ほぼ内定をもらいます。留学生としてグローバル・コミュニケーション学部の魅力を感じる理由の一つであるといえるでしょう。もちろん、自分の努力なしでそんなことはありません。今、私たちは日本で就職するために就職活動に一生懸命に取り組んでいます。しかし、母国と日本の就職の仕組みがだいぶ違うので、悩むことがたくさんありました。そんな中、初めて社会学部との合同ゼミに参加しました。

今回の合同ゼミの授業テーマは「日本の企業の採用」でした。社会学部・産業関係学科の寺井ゼミでは「日本の採用と優秀な人材」に対して熱心に学んでいる、とのことでした。また、私たちも3年間鈴木先生の選択科目やゼミで日本企業における外国人社員の位置づけや留学生の就職活動について学んできました。これまでこの授業で「外国人から見た日本の就活」について意見を交換し、日本以外の海外の就職活動について勉強してきました。その結果、日本の就職活動に対して興味が湧きました。それを日本人学生の前で発表したいと思いました。そんな機会は初めてでしたので、それぞれの意見をまとめて緊張しながら発表の準備を行いました。

3年の間、GCの授業が今出川の方で行われたこともなく、しかも他学部の日本人学生とディスカッションをするという機会があまりなかったため、1週間前からドキドキする気持ちでした。「外国人の労働・就活」という主題に対する話について、日本人学生の意見を聞いたり、寺井先生の講義を聞いたりすることができて、今まで鈴木先生の授業で学んだことを基に意見交換ができる実現の場ともなりました。ゼミの先生だけではなく、実際に企業の元人事部にいらっしゃったTAの方もいて、知りたいことや悩みごとをたくさん質問することができました。何よりも印象的だったのは、外国人が疑問と思っている日本の採用制度の中で「外国人社員も入社試験としてWebテストを受ける必要があるか」について、実は日本人学生も納得できない部分だったということです。

また、私が疑問に思っていた日本と母国の働き方に対する価値観の違いも実感できました。レ

ジ打ちバイトをしている韓国人の友達が、お客さんが並んでいるのにもかかわらず、自分の退勤時間になった瞬間、レジを閉めてそのまま帰ったという話を聞いたことがありました。それを聞いてこれは価値観の違いなのか、それとも自分の友達が自己中心的なのか複雑な気持ちでした。ところが、寺井先生が旅行先での経験で全く同じエピソードを聞かせてくださり、その場合は当たり前だと教えてくださいました。これはまさに働き方における日本と海外の価値観の違いにより生じたことだと気づきました。これからは価値観の違いを念頭におきながら、自分の就職活動を進んでいくべきだと思いました。

それ以外にも、現在の就職活動の進捗状況や細かい悩みごとなど、みんな同じ就活生としての悩みを交換できてとても有意義な時間でした。

これから本格的に始まる就職活動に対する理解が深まり、「よし、がんばろう」という熱意が湧き、モチベーションにつながった特別授業になりました。

ソン ヒョンソ
(宋 玟抒)

● 留学しているところで、バイトをすることを決めたきっかけは？

私は韓国出身で、同志社大学へ入学した留学生です。1年生のときは、日本の生活に適應したり、学生生活を快適に過ごしたりするため、時間をかけて忙しい留學生活に慣れるようにしました。しかし、私が2年生になったとき、コロナウイルスが発生し、春学期は非対面授業で行われるようになりました。人に出会う機会も、外に出かける機会も失われ、一人でいる時間が多くなりました。しかし、ある日突然に「せっかく日本へ留学に来たけれど、これが望ましい留學生活だといえるのだろうか」という考えがあふれてしまいました。自分がもっと留學らしい留學をしたと将来話せるように、何とかしたかったのです。それで思い出したのがアルバイトでした。そのため、2020年5月から近所にある大きなマートのレジ業務を担当するようになりました。

● 印象に残った経験

全ての瞬間が印象に残っていますが、その中でも、アルバイト最後の日が一番記憶に残ります。5か月間バイトをしながら、私はいろいろなミスもしましたし、知らぬ間に他の従業員に迷惑をかけていたかもしれないです。しかし、そのような私を信じて、仕事を任せてくださった従業員さんたちに、直接手紙を書いて差し上げました。主任は、その手紙を読んで泣いてくれましたし、他の従業員は逆に私に手紙とプレゼントをくださいました。「ああ、自分は本当にいいところで働いたな」と思え、バイトをしてよかったと思った瞬間でした。



● 学んだこと

アルバイトをしながら、いつも考えていたことですが、この世の中では、本当に多様な人々がいるということです。お客様の中でも、親切な人がいることに対して、全然そうではない人もいますし、従業員を無視する人がいれば、感謝してくださるお客様もいます。しかし、振り返って考えてみれば、親切な人の方がもっと多かったことです。たとえ大変だとしても、それを記憶して元氣よく働くのが大事だと思うようになりました。

ソン ソヨン
(宋 抒娟)

Seminar Project

必修授業 Seminar Project (通称セミプロ) では、GC 学部4年生が3コース (英語・中国語・日本語) 合同で取り組むプロジェクトです。学生が主体となってプロジェクトの立案から行い、3年間学んだことを活かします。

※以下の各プロジェクト紹介は、2021年9月頃に書かれたものです。

[S PROJECT]

サステナブルファッション推進団体 S PROJECT は22人の学生 (Students) から構成され、古着 (Second-hand clothes) を用いてサステナビリティ (Sustainability) に貢献するプロジェクトを進めています。

衣料の大量廃棄に問題を感じ、私たちにできることはないかと考えたことからこのプロジェクトが始まりました。もちろん、問題の原因は膨大かつ複雑で私たちにできることは限られているかもしれません。し

かし、身近なことから解決の一助になることができると私たちは信じています。

従って、衣料ロス問題や、私たち消費者ができることについて楽しく学べる二つのイベントを11月ー12月の間に開催します。詳細は私たちのインスタグラム「@ sproject_gc」にて、随時情報を解禁します。まだ詳しくは話せませんが、誰もが知っているあの大企業さんとコラボするので要チェックです！

サステナブルな社会への大きな一歩を私たちと共に踏み出しましょう！



【ゆるヴィーガンはじめませんか～菜食主義について学ぼう～】

ヴィーガンに興味を持つようになったのは、留学先でヴィーガンの友達に出会ったからです。初めこそ宗教的なものだと思っていましたが、調べていく中で環境問題や動物保護の問題にもつながっていることを知りました。自分自身の考えや食生活を変えるきっかけにもなり、このテーマをぜひ大学の友達とも共有したいと思い、立案しました。

私たちの目標は、多くの人にヴィーガンについて知ってもらうきっかけを作り、生活の中に取り入れるヒントを提供することです。

そのために私たちは、「ヴィーガンガイドブック」を制作しています。このガイドブックには、ヴィーガンに関する基礎知識はもちろん、京都で行きたいヴィーガンレストランや、お家で楽しめるお取り寄せヴィーガン商品、ヴィーガンコスメなどの情報を掲載する予定です。「ヴィーガン、やってみようかな」と一歩踏み出すきっかけになるガイドブックを目指しています！



【でんなりらいふ】

「サステナブルな消費生活」と「日本の伝統の知名度を高め守ること」を目標として活動しています。春学期は「伝統工芸とは？」を学ぶために講師をお招きしました。また、実際に伝統工芸の職人・工房の取材などを行いました。秋学期にはこれらを発信します。

立案のきっかけは3点あります。1点目は現代で衰退する伝統工芸を保護していきたいと考えたからです。近代化が進む中で生産性の低い伝統工芸品は衰退する一方でありま

す。しかし、伝統工芸産業は日本の一つの文化的代表産業であり、歴史的に日本文化と伝統工芸品は私たち日本の生活と密接に関わってきました。

2点目は、日本人であっても自らの文化に関心がない、あるいはまったく知らない人が多いと感じたからです。伝統産業におけるターゲットは主に年配の方となっています。それは若者が伝統工芸産業に興味を持たない、あるいはそもそも知識に接する機会もないからと考えます。3点目はサステナブルな消費生活を発信したかったからです。現代の大量生産・大量消費による環境被害を改善する一つの手段として「長く大切に使い続ける」伝統工芸品があると考えたからです。



【フードロスを減らそう!～MOTTAINAIの発信で子ども達を笑顔に～】

アルバイト先で毎日大量捨てられる食材などを見て「何か食品ロス削減に貢献できる活動がしたい」と思ったことがきっかけでこのプロジェクトを立案しました。

当初は①生産者さんから規格外野菜を譲り受け、子ども食堂に届ける。②小学校で食育をする。という二つの軸で活動していましたが、ご縁があり現在では①企業と生産者さんとが協力して規格外野菜を用いた商品開発、②ロスゼロ（食品ロス関連の企業）でのブログ執筆、③ラッテと規格外野菜を用いたコラボメニュー開発、④京都府の中学校で食育関連のコンテストを行う、⑤SNSでの広報活動、というスケールの大きなものになりました。このプロジェクトを通して少しでもみなさんの生活に「食品ロス削減につながる行動」を取り入れて欲しいと思っています。なぜなら食品ロスの半分は家庭からのもので、国民1人あたり年間50kgものロスを生み出しています。企業の責任ばかりではなく、1人1人の意識や行動が大きな変化につながると思っています。



【虹プロジェクト】

SDGs（持続可能な開発目標）の5番目と10番目に掲げられている「人や国の不平等をなくそう」、「ジェンダー平等を実現しよう」を私たちレベルでの実現を目指す活動をしています。

具体的には、男女格差・LGBTQ・異文化理解という三つのテーマに沿って、写真展の開催を現時点では開催予定です。少しずつ多様性が尊重される世の中になっている一方で、隠された不平等や差別（無意識的に抱えているものを含む）はまだまだあると思います。

そこで、本プロジェクト（虹プロジェクト）のメンバーの声を外部に持続的に発信できる機会を作ることはもちろん、本校の学生にもジェンダーや性的思考、年齢、国籍が原因で起こる差別や不平等の実情を知り、考えてもらえる機会になることを目指しています。



【ぼくらのみらいぶろじえくと】

中高生を対象に多様な価値観に触れ、将来の選択肢を広げる機会を設ける活動を行っています。現在は四つの活動に取り組んでおり、異なる観点から中高生に働きかけています。

一つ目はセミプロメンバーとの交流です。主にオンラインセミナーを開催し GC 学部生が大学での学びとキャリア選択のつながりを自身の経験からお話します。また YouTube 動画も作成し他学部生の経験談も配信します。

二つ目は海外の高校生との交流です。全世界の高校生が直接各国の言語、生活を紹介する軽いテーマ、将来に関する進路選択テーマ、この二つのテーマの映像を作成します。互いに映像を共有することで、世界中の高校生たちが新しい価値観を持つことを目的としています。

三つ目はゲストスピーカーとの交流です。様々なバックグラウンドを持つゲストを招き、キャリアについてのお話を伺うインタビュー動画を撮影します。中高生に将来について真剣に考えるきっかけを設けることが目的です。

四つ目は精華西中学校との交流です。実際に中学校を訪問し、「世界の学校生活を知ろう」というタイトルで授業を行います。単なる「違いの紹介」にとどまらず、その背景や文化の違いに踏み込みたいと考えています。



(早田 千展)

オープンキャンパス: Welcome to GC!



大学時代に新しい転機を迎えた体験

Welcome to GC! は学生だからこそ発信できる GC 学部の魅力を高校生の方にお届けするために、GC 生が主体となって行われる学部独自のオープンキャンパスです。もともと、Welcome to GC! は校内で行われていましたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で去年から Youtube を通して発信するようになりました。しかし実を言えば、私はこの新型コロナウイルスの影響で Welcome to GC! に参加できたといえます。

去年コロナ禍によって私の母国である韓国でオンライン授業を受けることになりました。実際私は1年生のときまで学校や日本生活になれることに精一杯で、サークルや団体などで何らかの課外活動に参加する余裕がなく、日本人の友達と付き合う機会があまりなかったです。しかし韓国に帰国してキャンパスライフさえ楽しめなくなり、当時自分の日本留学の意味について振り返りました。私は学校とのつながりを失わないためにコロナと共に生きながらキャンパスライフを楽しむ方法を工夫しました。そして、Welcome to GC! に挑戦することになり、それは私の大学時代、新しい転機となりました。



2020年から Welcome to GC! は春からプレゼンテーション班と動画班とに分けられ、プレゼン班では主にスライドを作って、3コースそれぞれの授業や入試制度、受験対策、留学経験談を紹介しています。

一方で、動画班ではコロナ対策や授業外活動紹介、OBOG インタビュー、キャンパスツアーなど多様なコンテンツの動画を作ります。ちなみに、今年私はプレゼン班として「GC の魅力」というコンテンツを担当しました。そのとき、受験生に何を伝えようとしているかをはっきりしつつ、毎週 Welcome to GC! のメンバーからのフィードバックをもらいました。それを通して、スライドの文字の大きさや話すスピードやジェスチャーなど気づいてなかった細かい部分まで逃さずにセリフとスライドを作りました。そのおかげで、実際動画を撮影するときに焦らずにプレゼンテーションすることができ、より完成度の高い動画を作ることができました。



また、私は8月7日に Welcome to GC! ライブ配信にも参加することになり、そこでグローバル・コミュニケーション学部日本語コースを紹介しました。既存の Welcome to GC! とは違ってリアルタイムでプレゼンテーションしなければならなかったのも、とても緊張しました。しかし、今まで毎週みんなの前で練習してきた影響なのか、楽しみながらプレゼンテーションすることができました。そして Welcome to GC! ライブ配信は大成功でした。

UNITY
NIQUE

同志社大学
グローバル・コミュニケーション学部
Open Campus
By GC Students
YouTube Premium 動画
Welcome to GC!
2021 7.25 12:30-14:00
・ GCの伝統と学生生活
・ GC学部の授業
・ SA(study abroad)
・ ゼミ紹介
・ ねこターゲットプロジェクト
・ 4年間の経緯
YouTube Channel
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部
配信申し込みフォーム
Instagram
ID

7.18 12:00-
Special授業ライブ配信の配信
【チャンネル登録・ライブ配信の配信】
YouTube
7.25 12:00-
本学プレゼンテーション動画
YouTube Premium
7.25 12:00-
動画コンテンツ制作(入学準備動画、経緯動画)
YouTube
8.1 12:00-
配信動画
Zoom



もちろん、この過程で困ったこともたくさんありました。初めてのチラシ作り、日本人の友達とのプレゼンテーション、動画編集、私にはそのすべてが初めてであり、そのすべてがチャレンジでした。さらに、3年生になり、授業だけではなく、卒業論文の準備や就職活動まで重なってしまい、とても大変でした。しかし、やはりそれを全部完璧に済ませるのはできないので、そうした自分自身が情けないと感じた時期もありましたが、それでも私は Welcome to GC! に参加してよかったと思います。



この6か月間 Welcome to GC! に取り組んで、日本人の友達と関わることで大事な新しい友達を作ることはもちろん、コミュニケーション力や多様な視覚で捉える力を身につけることができました。特に、ある問題が起きててもそれについてみんなで一緒に悩んで糸を解していきながら、みんなで Welcome to GC! を作り上げたことはとても貴重な経験でした。これはやはりチャレンジすることをおそれなかった自分自身があったからだと思います。私の留学計画にはなかった Welcome to GC! の参加経験から、これから前に踏み出す方向がわかりました。今後も私はやったことのないことにチャレンジすることをおそれず、とりあえずチャレンジしてより豊かな留学生を送りたいと思います。

オ ジュヒョン
(呉 宙玟)

外国人児童生徒の日本語学習支援について

2020年グローバル化と日本社会の授業に登録しました。授業で外国人住民と日本社会、外国人児童生徒、日系ブラジル人、謝罪や感謝と異文化接触、第2言語習得、高度外国人材、在留資格、技能実習生、留学生、介護士・看護師、日本語教育などのキーワードの中から一つ以上三つ以内を用いて、自分で情報を収集して、調査結果と自分の考えを述べる機会がありました。

私は外国人児童生徒と第2言語習得について調べました。それで、日本語指導が必要な外国人児童生徒についての情報が多くあり、彼らの日本語学習の現状や課題、またその課題を解決方法について調べました。この授業を通して、外国人児童生徒についての理解が深まりました。

そこで、留学生である私が日本に住んでいる日本語指導が必要な外国人児童生徒のためにできることが何かについて考えました。

留学生は自分の意思で日本に留学して、日本語を勉強しています。しかし、外国人児童生徒は自分自身ではなく、両親の意思で来日しました。また、留学生は日本語の難しさを感じたり、日本で生活する上で困難に遭ったりした経験があるので、外国人児童生徒と共感できるところがたくさんあります。そのため、私は日本語指導が必要な外国人児童生徒を支援するボランティアを探し、参加することに決めました。

インターネットで大阪にあるK協議会が開催しているボランティア活動に申し込み、見学をしに行きました。この日本語学習支援のプログラムは毎週1回2時間行われ、ボランティアの方と日本語学習支援が必要な小学生が2人のペアで宿題をやったり、日本のゲームで遊んだりします。

2回目から本格的に子どもの勉強をサポートするようになりました。毎回、事前ミーティングで自分が担当する子どもが発表されたら、その子の学習状況、心理、態度などの資料を読み、前回の担当者と話し合います。一緒に楽しく勉強したいと思い、子どもの好きなことや注意点を先輩方に教えてもらいました。

子どもの学習状況や能力が様々で、その子に合わせて教えることが難しかったです。おとなしく宿題をやる子がいれば、集中せずにしりとリゲームをしながら勉強する子もいます。大人の視点から見ると、まじめに、集中して勉強しないと行けないと思う人が多いかもしれません。私もそう思いました。しかし、子どもにとって、自分の好きなことをやりながら勉強することの方が頭に入りやすいらしいです。また、子どもの母国語と私の母国語が違うので、日本語でコミュニケーションを取っているが、伝わらないときがあります。どうすれば伝わるようになるかは私が考えなければなりません。つまり、難しい日本語を一生懸命覚えさせることより、一緒に楽しく勉強できるように工夫することの方が重要だとわかるようになりました。

最後に、このボランティア活動の主催者から留学生へのメッセージをもらいました。

「留学生の皆さんは、外国語としての日本語を学ぶ立場として、また母国から離れて生活をしたり、勉強したりする立場として、子どもたちに寄り添える部分もあります。これらの面では、留学生の方々が外国ルーツの子どもたちをサポートする際、自身の経験を活かせることも多くあるのではないのでしょうか。留学生に限りませんが、ときには自分の「当たり前」が当たり前ではないことに気づいたり、他の文化や考え方、生活様式を持つ人と交わって、新しい価値観が生まれたりすることもあると思います」

というメッセージです。

課外活動に参加し、私は常に自分ができることはなにかと考え、行動することができました。これからは卒業論文に向けて、日本語指導が必要な外国人児童生徒について研究していくつもりです。みなさんも自分のできることについて考え行動すれば、きっとやりがいを感じられると思います。

(グエン・ドク・マイ・チャン)

長期インターンシップへの挑戦

私たちはこの夏、北海道にあるキロロリゾートで1か月のインターンシップを経験しました。

このインターンシップの参加を決めた経緯は、将来観光業に就きたいからです。現在、インターンシップはオンラインで開催されているものが多く、また観光業に関するインターンシップは、開催されるかどうか不明確な場合が多いです。そのため、観光業の仕事を経験するのに、この1か月のインターンシップは良い機会になると思いました。3年生は就職活動が本格的に始まる時期なため、1か月の長期インターンシップは不安でしたが、長期であるからこそ経験できたことがありました。



キロロリゾート正面入口（右）とホテルの内装（左）

まず、ホテル業の総合的知識を得ることができました。フロントの業務では、多くのホテルで使用されるシステムでチェックインとチェックアウトのやり方を学びました。この知識は就職先としてホテル業を考えている場合にとても有利になると思います。

次に、お客様との関わりを通してホスピタリティについての理解が深まりました。1スタッフとして、お客様のニーズに応え、より良いご滞在にさせていただくために奉仕することの重要性を学びました。実際にお客様が満足されているところを見ると、達成感を感じました。また、休日はホテル周辺の観光地に足を運び、街の雰囲気や歴史的建造物を自分の目で見ることで、観光業に興味がある方は休日にも多くの経験になると思います。



札幌の時計台（左）と小樽のステンドグラス美術館（右）

私たちは2人とも、ホテル業界の知識があまりない状態で参加しましたが、インターンシップを通じてこの業界の基本的な知識が身につきました。そこで、自分が将来働きたい業界の長期インターンに参加することは非常におすすめです。その会社にどういったスタッフの方がいて、どういった雰囲気で行っているのか、ということは数日～1週間のインターンではわかりえないことだと思いますし、実際自分自身も1か月間インターンに行ったからこそ、職場の方たちと打ち解けてとても良い雰囲気で働かせていただくことができたと思っています。また、1か月のインターンシップは他の人があまり経験しないことなので、就職活動の際には大きな強みになると思います。皆さんも、機会があったらぜひ長期インターンシップにチャレンジしてみてください。

（伏木 彩澄菜・古村 碧）

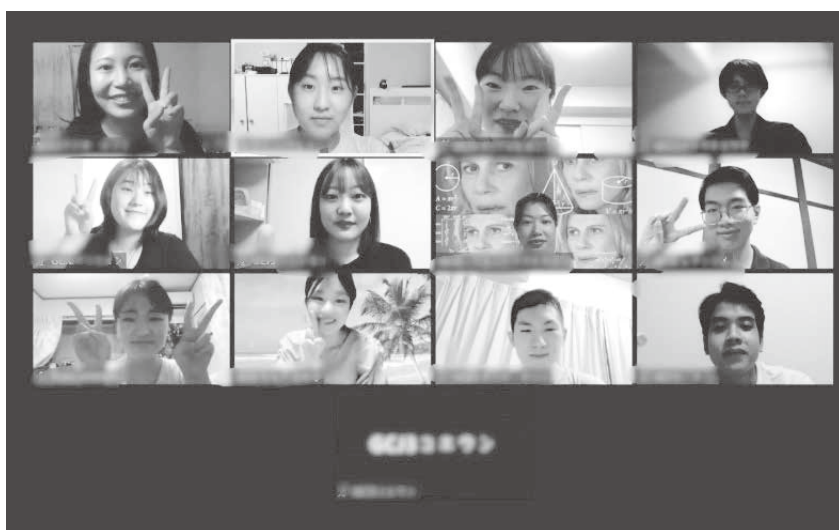


夜の小樽運河

2021年 Zoom ひろば！ 企画

GC 学部交流会

私はグローバル・コミュニケーション学部（GC 学部）の機関誌 *Cosmos* で1年のときから編集委員として活動をしています。記事の内容は主に学部生がどのような学校生活を送っているのかを中心に構成されています。しかし、2020年から本格的に始まった新型コロナウイルスの影響で対面授業がオンラインに切り替わり、さらに日本入国すらできない状況が続くなど、通常の活動ができなくなったのです。新しい局面を迎え、この状況を逆手に取る企画はないかと考えた結果、「Zoom ひろば」というイベントを開催することになりました。そのおかげで、海外に散らばっていた GC 学部生の集まりの場を設けることができました。GC 学部交流会でどんなことがあったのかを今からお届けします！



全学年交流会の様子

9月20日、GC 学部の交流会が行われました。全学年向けなので、顔なじみの人が何人かいてリラックスした雰囲気から始めることができました。学年別、コース別、ごちゃ混ぜのルームに分けられていろんな話ことができました。先輩として後輩にアドバイスをしたり、友達どうしで楽しんだり、他のコースの留学事情について聞いたりしたからか、1時間があっという間に過ぎました。GC 学部というつながりだけで、こんなに話が盛り上がるとは思いませんでしたのでびっくりしました。これからも全コースの交流ができる場が増えたらいいなと思った1日でした。

こうして夏休みの間、*Cosmos* のメンバーが集まって企画した交流会が無事に終わりました。誰も来なかったらどうしようと心配したのもつかの間、たくさんの学生が集まってきてとても嬉しかったです。そして他のコースとの交流を望む学生がかなりいると感じた瞬間、一番やりがいを感じました。最後に、夏休み中にさまざまなご意見を出してくださった *Cosmos* メンバーや、忙しいところ参加してくれた学生のみなさんに感謝します。

キム ナヒョン
(金 娜馨)

1・2年生 GC 学部交流会

2021年9月17日金曜日、とても晴れていました。しかし、コロナ禍の状況は相変わらずで、私をはじめ他の留学生たちはいまだに入学後、学校に一度も行っていないまま、オンライン授業を受けていました。そんな中、このような時局に入学した1年生たちと、これまで顔も合わせられなかった2年生の他のコースの同期たちを見られる機会ができました。

今年11号を創刊するグローバルコミュニケーション学部機関紙 *Cosmos* では、各コースの1年生と2年生が会えるように各学年の交流会を主催しました。

1時間という短い時間で自己紹介、ルーレットゲーム、20問のゲーム、連絡先を交換しながら、会うことのあまりない全コースの同期との親睦を作る目的で交流会を行いました。ゲームを行った理由は、初めて見る人とのぎこちない雰囲気解消し、より多くの情報をお互いに交流するために進めることにしました。

主に軽い会話をしながらお互いの好みや夏休みの思い出を話しながら親しくなり始めました。全学年が交流できるよう、ルーレットゲームのテーマとしては「出身地のおすすめグルメ」「部活・サークル・バイト」「コロナ後にしたいこと」「他に学びたい言語」「1億円が当たったらどう使う?」「この夏の思い出」「コロナ以降で一番変わったあなたの習慣」「京田辺キャンパスのおすすめグルメ」がありました。

20の峠問題は、問題を出す人1人とその他の人が問題を当てる形で、問題を出す人は、ある物や人を思い浮かべ、問題を当てる人は無作為に質問を20回投げかけてその物を当てるゲームです。韓国では「二十の坂」というゲームで知られています。8時から9時まで行われた1年生の交流会は、完全に1年生どうしで行われるように行われました。ゲームの説明をして、1年生だけのブレイクアウトルームを作った後、一定時間がたってからまた戻ってきて、何を話したのかについて聞いてみました。初めて会ったときより親しくなった姿と、明るくなった表情を見て交流会を主催して良かったと思えました。



1年生の交流会の写真

9時から10時まで行われた2年生交流会では中国語コースの2年生が2人参加し、交流会企画チームも一緒に参加しながら同期たちと親しくなれました。進行は、1年生の交流会で行ったように自己紹介、ゲーム説明、ゲーム実行、まとめの感想で行われました。

ルーレットゲームで夏休みの思い出として家族で旅行に行ったこと、高校の友達どうしでゲストハウスに行って合宿をしたこと、インターンシップに参加したこと、以前オーストラリアでアルバイトをしたこと、そしてまた学びたい他の言語や英語を学んでシアトルに行ってみたいとか、中国語を習いたいとか、それぞれ学びたい理由を聞くことができました。

コロナ後にしたいことについて、ほとんどの人が旅行に行きたいと答え、コロナによって留学に行けずにいる状況や学校に行けない状況に対する不満を正直に話しました。そして趣味や関心事について話をしましたが共通する関心事の中にアニメーションがあって最近あるいは好きな日本のアニメーションについて簡単な話を交わしました。

多様な主題の中でもやはり日常で最も大きな問題として取り上げられたのはコロナのせいで日常生活を抑圧されて、ストレスを受けているということでした。また、1日でも早くビザ問題及び諸国家間の交流制限が解けることを望んでいることがわかるようになりました。

カン ドンリョン
(姜 東龍)



2年生の交流会の写真

Welcome to DOSHISHA

国内交換留学インタビュー

インタビューアー キム ナヒョン 金 娜馨
インタビューイ 後藤 ちひろ

皆さんは同志社大学と早稲田大学の交換留学制度についてご存知ですか？同志社大学の学生は日本の中心である東京で、早稲田大学の学生は日本らしさを保っている京都での学びを通して、視野を広げ、さらに自分を成長させることを目的として設けられた制度です。さて、今回は早稲田大学の文化構想学部から同志社大学のグローバル・コミュニケーション学部（英語コース）にやってきた学生さんとのインタビューをお届けいたします！

ナヒョン：はじめまして、同志社大学グローバル・コミュニケーション学部3年の金ナヒョンです。今回のインタビューに応じてくれて本当にありがとうございます！それでは、早速で申し訳ないですけど、自己紹介からお願いしていいですか？

ちひろ：はじめまして！後藤ちひろといいます。早稲田大学の文化構想学部に所属していますが、現在はグローバル・コミュニケーション学部の英語コースに交換留学中で、2年生です。私の簡単な自己紹介は以下の表にまとめてみました。（笑）

出身地	東京
好きな食べ物・飲み物	鶏肉！卵！特にだし巻き卵，オムライスが大好きです♡ 飲み物だと最近はコーヒーにはまっています！ブラック派です
趣味	音楽鑑賞 Ariana Grande, Justin Timberlake, K-popをよく聴きます！
特技	ストリートダンス

ナヒョン：自己紹介ありがとうございます！次はよく聞かれる質問だとは思いますが、国内交換留学をしようと思ったきっかけについて伺っていいですか？

ちひろ：一言でいうと、自分を変えたかったからです。私は自分から積極的に変化を求めに行くタイプの人ではありませんでした。その傾向はコロナの影響で家にいる時間が長くなったことで、より強くなっていました。同時に、殻に閉じこもってばかりの自分を変えたい気持ちも常にありました。SNSの投稿や早稲田の大学のホームページに掲載されている記事の中で同じ状況下でも活躍している同年代の様子をしり、私も何かしなければ！と思い、出会ったのがこのプログラムでした。

ナヒョン：なるほど、行動力がすごいですね！このプログラムを通してたくさんの変化が起きたはずですが、京田辺ならではの魅力は何だと思いますか？やっぱ東京出身だから大きな違いとかあるんじゃないですかね

ちひろ：そうですね、私が思う京田辺ならではの魅力は自然が豊かなところですよ。朝起きてカーテンを開ける瞬間が本当に大好きで、一限登校の日はその瞬間の気持ちよさを糧にがんばって登校しています！笑 部活帰りに空を見上げると、星がきれいなところも大好きです！

ナヒョン：私もそれ思っていましたよ。空気がきれいだから星が見えてきて、いつの間にか星座

を見つけるのが好きになりました！そういえば、東京の出身だと京田辺キャンパスにかなり慣れなさそうな気がしますけど…（完全偏見）なぜグローバル・コミュニケーション学部を選びましたか？

ちひろ：英語を多角的な分野から学ぶことができるからです。私は他者と交流することができる「言語」に強く魅力を感じています。中でも英語は、世界でも多くの人が学んでいることから、多様な背景を持つ人との交流手段として深く学びたいと考えていました。そのため、人と人をつなぐ、「今」使うことのできる英語能力を身につけたいと思い、グローバルコミュニケーション学部を選択しました。

ナヒョン：確かに、英語は世界の多くの人とコミュニケーションをとれるので、とても魅力的ですね。それじゃ、印象に残った授業とかはありますか？

ちひろ：どの授業も楽しく、魅力的な講義内容です！一つ選ぶなら、「外国語から見た日本語」という授業で、対象言語学の観点から日本語を考察する授業が印象に残っています。母語話者にとって当たり前のことを問う授業内ディスカッションや課題が多く、いつも「うーん」とうなりながら答案を作成しています。この授業は日本語コース設置科目なので留学生の方とも交流ができ、毎講義楽しく受講しています。

ナヒョン：あらら！私もそれ取ったことあります、懐かしいですね！いつも当たり前のように思っていたことを問われたら結構苦労してそうな気がします、これも新しいチャレンジであり、思考の転換にもなるかもですね。授業以外に同志社でできた新しいチャレンジはありましたか？

ちひろ：ボクシング部に所属したことです。私はマネージャーとして所属させていただいています。勉学と練習、バイト等を両立している部員の方を間近で見て、本当に刺激を受けています。そんなすてきな部員の方々のサポートができることを心から誇りに思っています。まだまだ仕事にミスは多いですが、早く一人前になって部活に貢献したいと考えています。Instagramもほかのマネージャーの皆さんと協力しながら投稿しているので、ぜひのぞいてみてください！選手の方のかっこいい写真や動画がたくさん投稿されています！

ナヒョン：なるほど、学校のことでだけでも相当忙しいだろうに、練習と勉学、そしてバイトまで両立している部員の方々もすごいですし、交換留学でマネージャーの役割を果たしているちひろさんもすごいなと思います！今までの話を聞いていると、まじめでしっかり者というのがすぐく伝わるのですが、これからの計画について教えてもらえますか？

ちひろ：自分の強みを見つけたいです。私がこのプログラムに参加した理由は、自分を変えたかったから。自分の弱点を克服しつつ、「これが私だ！」と思えるような強みを同志社大学での生活を通じて見つけたいなと考えています。そのためには多くの人と関わり、お話を伺い自分の知見を深める必要があります。人見知りをしてしまう私ですが、積極的に様々な人に声をかけてみようと思います。せっかく京都に住んでいるので観光名所もたくさんめぐりたいです。高校のとき、日本史選択だったこともあり（成績はきかないでください笑）、歴史には興味があります。コロナの感染状況に配慮しながらできるだけたくさんの寺社仏閣を訪れて日本の歴史を体感したいと考えています。あとは、気になるだし巻き卵さんがたくさんあるので、観光名所めぐりをしつつ、ベストだし巻き卵を見つけたいです（笑）

<ちひろさんからのメッセージ>

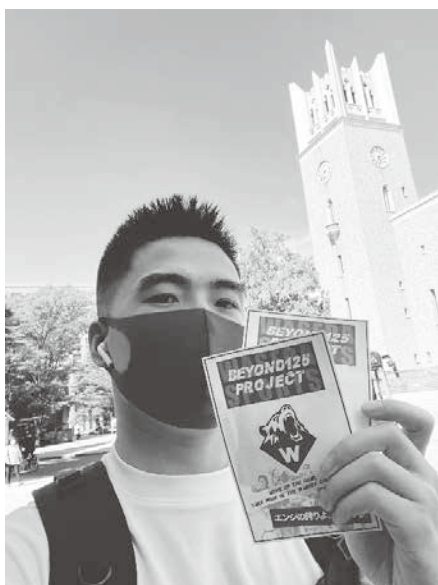
さまざまな場面で多くの方に支えられて留學生活を送ることができています。感謝の気持ちを忘れずに、残りの期間も充実した同志社での生活を送りたいと思います。

早稲田大学へ ～国内交換留学体験記～

皆さん、こんにちは！グローバルコミュニケーション学部日本語コース3年生の王財輝^{オウザイ キ}と申します。私は将来、グローバルなスタイルを持つ日本語教師となり、言語教育による人々の国際的な相互理解に貢献したいと考えています。そのため、GC学部の日本語コースへの進学を決めました。GC学部の日本語コースでは、日本の「ことば」「文化」「社会」を多面的に学べます。そのようなカリキュラムは、グローバルなスタイルを持つ日本語教師になりたい私にとってピッタリでした。しかし入学後、専門的な日本語教師になるためには、日本の「ことば」「文化」「社会」はもちろん、他にも様々な分野の知識も必要だと感じました。例えば日本語や日本社会の知識を身につけたら、どのように他者に伝えていくのか、また、教えられるのか、その技も習得したいと思うようになりました。

ちょうどそのとき、本学と早稲田大学の国内交換留学という制度を知り、早稲田大学への交換留学を志望しました。早稲田大学への交換留学を志望した理由は、早稲田大学で日本語教育に関する授業が非常に充実しているので、それらの科目を多く履修したいからでした。選考を経て、私は早稲田大学教育学部国語国文学科で1年間勉強することになりました。早稲田大学への交換留学ができて本当によかったと思っています。

早稲田大学国内交換留学の条件、選考の方法などについて、大学ホームページに詳しい情報が載せてありますので、もし興味を持っている同志社生がいたらぜひ調べてみてください。



早稲田大学 生活スケジュール

春学期	月	火	水	木	金	土
1限				「日本語教育学入門」		「タイ語入門」
2限	「日本語教授法」		「日本語学習者を支援する」		「日本語文法」	
3限	「日本語教育演習」ゼミ		「書道」		「日本語学演習」ゼミ	
4限	「日本語教師を養成する」		「敬語コミュニケーション」	サークル	「就職のための日本語」	サークル

こちらの図表は、早稲田大学春学期のスケジュール図表です。図のように、私は主に日本語教育に関する授業を多く取りました。その他、タイに興味を持っている私は、タイ語の入門という授業も取りました。また、学部関係なく、「書道」、留学生対象とした「就職のための日本語」という授業も受講できました。

新型コロナウイルスの影響で、全ての授業が対面ではありませんでしたが、対面授業も充実していました。対面授業を通じて早稲田大学の友達をたくさん作りました。また、勉強面において、日本語教育の様々な分野の知識を得られました。同志社大学に戻ったら、ぜひその日本語教育学の知識を活かし、卒業論文を仕上げたいと考えています。



最後に、早稲田大学で1年間の交換留学ができたことで、東京で様々な刺激を受けました。早稲田大学での1年間の交換留学は私にとってかけがえのない経験です。同志社大学のGC学部の学生として早稲田大学で活躍できてよかったです。交換留学を推薦していただいた同志社大学と受け入れていただいた早稲田大学に感謝いたします。

オウ ザイキ
(王 財輝)

OBOG インタビュー

GC 学部も2021年で創立11周年となり、卒業生の皆さんが様々な業界で活躍されています。今回は、英語コース、中国語コース、日本語コースの各コースの卒業生に仕事内容や就職活動についてお話を伺いました。

●英語コース卒業生 長谷川 大介さん (ソニーグローバルソリューションズ株式会社)

※ 2021 年 9 月時点

○仕事内容

私はソニーグループのビジネスを IT/ デジタルによってサポートする会社に所属しており、その中でもデジタルの力を使って社員の働き方改革を進めていく部署に所属しています。日々の業務内容としては、アプリケーション / システムの実装だけでなく、サービスの企画も行っています。

○なぜ文系からプログラマーに？

なにか仕事を通して専門性を身につけたいとはずっと考えていて、近年話題になっていた IT が目についたのがキッカケです。将来的には IT を使っておもしろいことができると良いなと考えていて、そのためには、若いときに手を動かしてスキルを習得することが必要だと思い、今は実装などに主に関わっています。将来的には、習得したスキルを活かし IT コンサルタントのような戦略的な業務に携わりたいと考えています。



○業務で英語は使う？

日常的に業務で英語を使用しています。まず、プログラミングの言語は英語で書かれているため、コードの読み書きに英語を使用します。また、最新の技術を使用する際などは、英語の文献をあさることになるので英語を学習したことが役に立っていると感じます。さらに、海外とシステム連携をする際に英語でコミュニケーションをしたり、あるいは社内で文書を発行する際に英訳を担当することもあります。

○後輩へのアドバイス

私も就活をしたときには周りの状況を気にしてしまいがちだったのですが、そのような一時の感情は、数年後の自分にとっては全く意味がないことだったと今改めて感じているので、「自分にとってどうなのか」を基準に、自分が本当に納得できる仕事を探し、また、就職後も価値観は変わったりするので、自分にとっての最適解を探し続けることが良いのではと思います。

(山口 真穂)

●中国語コース卒業生 中西 直文さん

(住商国際物流有限公司 Freight Forwarding 事業部)

※ 2021 年 8 月時点

○仕事

現在、中国の上海で働いています。モノの入荷や出荷等の倉庫に関するデータを確認したり、お客様からの問い合わせに対応したりすることで、より良い物流サービスの提供に尽力しています。「主体的に考えて行動をする」中で、計画していたことが成功した際に自身の成長を感じています。また、お客様と自社の要望を踏まえた上で、両者の意見をどのようにすり合わせていくべきなのかを試行錯誤して働いています。



○GCCでの学び

- ・「学生時代に向上させた語学力」は、実際に中国で仕事をする際に非常に活かされています。また、その語学力は「自身の自信」にもつながっています。
- ・留学を通して学んだ「中国文化や現地の人々の価値観」が、現在中国の方との「円滑なコミュニケーション」を行う助けとなっています。
- ・ゼミで毎週のディスカッションを行う中で、「疑問に思ったことを積極的に質問して、仲間と考えを共有し合った上で思考を深める経験」が、「仕事の中で解決策を提案する際の根本原因を考える力」を養ってくれたと思います。

○現在の中国での暮らし

- ・普段、回鍋肉や青椒肉絲といった中国の家庭料理を食べています。日本ではなかなか体験できない本場の味を楽しんでいます。
- ・中国の全省を観光したいです。四川省の九寨溝や湖南省の武陵源には、人生に一度は必ず訪れたいと考えています。

○GC生に一言

「入学当初に掲げていた目標に向かって、諦めず邁進し続けてください。」

新型コロナウイルスの影響で、思い描いていたとおりの大学生活を送ることができていない方もいるかもしれません。しかし、大学生活の中で実現したいと思っていた目標を達成するために、やり方を工夫しながら努力を続けてみてください。この経験が社会で役に立つときが来ると思います。

(藤田 菜摘)

●中国語コース卒業生 永井 大地さん

(株式会社 博報堂 生活者エクスペリエンスクリエイティブ局
統合プランナー)

※ 2021 年 9 月時点

○仕事

「クリエイティブ」の力を使って、広告制作だけでなく、商品開発や事業のコンサルティングも行っています。その中で、様々なスキルを持ったスタッフと協力し、多様化・複雑化した顧客の課題に対して、幅広い解決策を見い出しています。「どうやったら人は動いてくれるのか」、そして「どういう生活者体験であれば魅力的であるのか」について、日々頭を悩ませながら仕事に取り組んでいます。また、プライベートで得た気づきが仕事に活かされたり、逆に仕事で培った知見がプライベートの時間を豊かにさせてくれたり、仕事とプライベートの間で良い相乗効果が生まれています。



○GCCでの学び

- ・GCCの授業での「正解のない中で答えを考えたり、正解ではなく別解を探したりする経験」が、「仕事で利害関係者みんながwin-win-winになる地点を探す力」につながっています。
- ・留学で「文化の違いを実際に肌で感じながら考えた経験」が、「物事を多面的に見て、新たな価値を見いだす力」を養うことに役立ったと感じています。
- ・学生時代に築いた「グローバルな交友関係」は現在も続いており、「自分にはない視点から気づきを与えてくれて、仕事での新しい発想を生み出す」ことの助けとなっています。

○学生時代の習慣

- ・他人が発した心に残った名言をメモしていました。学生時代にはことの真意がわからなかった言葉でも、社会人になって経験を積み理解することができたときに成長を感じます。
- ・新しい人や街に積極的に触れていました。この経験は、新たなものを生み出すための発想の源泉になっています。

○GC生に一言

「ひたすらインプットをし続け、その中で心に響いたものに何かしら取り組んでみてください。」インプットしたことを実際に行動に移すことで、知識が体験になり、体験が経験になり、本当の自分をより深く知ることができます。また、その一つひとつの行動で得た気づきがつながって、何かに活かされるときが必ず訪れると思います。

(藤田 菜摘)

●日本語コース卒業生 Yasmine Ng (エン ヤスミン) さん
(有限会社 渡辺酒造店 (岐阜県飛騨地方の造り酒屋)) 出身: インドネシア
※ 2021 年 8 月時点

○大学生活について

GC 学部で3・4年生のときタンデムパートナーをし、授業がないときは土日にカフェでアルバイトしました。

○学校生活の中で記憶に残る活動はなんですか

3年次から行われるゼミが一番記憶に残っています。須藤ゼミに所属しており、ゼミの主な研究テーマは日本人とのコミュニケーションの壁を潰すための方法を考えることでした。ここから学んだ知識は今までも業務の中でお客さん対応の際にも使いこなしています。

またゼミで企画したクローバー祭のイベントで、日本人学生との距離が近くなったことも忘れられません。



○いつから就活を始めましたか

3年生からインターンシップをしましたが、実はそれ以降は進みませんでした。3年秋学期終わってから再度本格的に就活に取り組み、京田辺市役所で5日間のインターンシップをしました。この会社からの内定は4年生の11月頃もらいました。

○なぜこの業界に就職しようと思いましたか

もともと日本の伝統文化に関心ありましたが、日本語コースの授業の中で伝統文化を学ぶ機会が多くあり、その関心が深まりました。その中でも特に日本酒が好きで、岐阜県は世界遺産の白川郷があり、おいしい日本酒がたくさんあることに憧れを持ち、入社を決めました。

○簡単な業務内容を紹介してください。

注文を受けることから在庫管理まで携わっています。主にネット販売をしています。その際に常に在庫管理をしなければなりません。全国から来る電話注文やネットからの注文を受け、お酒の処理、出荷するまでの事務作業の全般を担当しています。

○仕事をしながらやりがいを感じることはなんですか

日本の社会になじみ業務が慣れてきたことです。初めて日本社会の中でもビジネスの場に立ったときは、いろいろ大変でした。特に電話の対応がすごく難しかったので間違ったりミスをしたこともあります。そこで諦めずに毎日練習をしたり、一度間違ったことに対しては二度と繰り返さないように改善していきました。その結果、どんどんミスが少なくなって業務も以前より慣れてきました。このように他国で社会人になるということは新しいことを学ぶことでもあると思います。日々勉強できる、毎日成長していると肌から感じています。

○ GC で学んだことの中で社会生活をしながら最も役に立ったことはなんですか

やはり「コミュニケーション能力」だと思います。今、市役所でインドネシアからきた工場で働いている実習生、体験職に対する日本語通訳のパートタイムの仕事もしていますが、ゼミで学んだ「外国人との壁」を崩すことを実際体験しながら、自分がその役割して活かしていると思います。

○後輩へのメッセージ

就職をがんばっている皆さん！就職活動で一番大切なのはメンタル管理です。希望の会社に入れなかったり、面接で失敗しても落ち込まずに、ずっと進んでいって欲しいです。それが人生の間違いにはつながりませんので、諦めないでがんばってください。卒業論文も自分の努力を信じてがんばってください！

ソン ヒョンソ
(宋 泓抒)

OBOG 座談会

GC 学部も2021年で創立11周年となり、卒業生の皆さんが様々な業界で活躍されています。今回は英語コースの卒業生2人をお招きして、就活のことや仕事のことなどざっくばらんにお話しして頂きました。

卒業生の紹介



古川いくみさん

帝人フロンティア株式会社
の営業担当



飯島 淳さん

日本 IBM 株式会社から分社、
独立した kyndryl(キンドリル)
の営業担当

※以下敬称略

仕事内容は？

古川：専門商社の中の繊維商社で営業担当をしています。アパレルメーカーさんに対して海外等で服を作って納めるのが1番イメージしやすいかもしれないですね。私はアパレル・衣料品ではなく、産業用資材と呼ばれる分野に属する商材を扱っています。繊維を使用する産業資材で例を出すと、たとえば不織布。去年コロナが始まったときには医療用ガウンの生産に携わっていました。そのほかにも不織布マスク、コスメのフェイスマスクなどですね。あとは、自動車の製造工程で使用される生地や、アウトドアの製品、原料販売、海外への輸出などなど。一言で言うと、服以外の繊維が使われているものを取り扱っているイメージです。営業の仕事としては、お客さんのフォローや、関連する工場での生産管理、取り扱い商材の市場調査や、展示会出展、新規の用途開発など幅広く担当させていただいています。商社というと、仕入れて、売るとようなイメージを持たれる方が多いですが、私の場合は加えて、お客さんの求める『モノづくり』をするケースが多いです。

山口：けっこう幅広いお仕事をされているんですね。

飯島：僕は IT 企業の営業なんですけど、お客様に対して未来を売っているのかなと個人的には思っています。半分冗談ですけど、半分本場で、テクノロジーやデジタルは世の中にとって重要なものとして扱われていますよね。お客様のデジタル戦略やデジタルを通したあるべき姿を描いて、それを実現するためのご支援をしています。例えばですが、銀行の ATM や会社の基幹システムと呼ばれるものであったり、お客さんが買い物をしたデータを集めて、そのデータを基に売り上げ情報やお客さんのトレンドを算出するようなシステムなどを作り、提供しています。

早田：「未来を売っている」ってすごいかっこいいですね。

飯島：それでごまかしちゃってるところはあるんですけど、長期的にはそういう意識で働いていますね。もっと具体的な業務内容についてですが、営業っていろいろやらないといけないのですが、端的に言うとまとめ役って感じですね。お客さんへの提案っていうのは一人ではできないんですよ。まずお客さんから課題や目指している姿をヒアリングして、それを実現するためのチームを作ったり、旗振り役をしたりしないといけないくて、そういう意味でかっこよくいったらま

とめ役です。旗振り役の一方で日程調節や資料作りなど、チームが動きやすいように縁の下の力持的なこともしています。

その業界を選んだ理由は？

飯島: ITを選んだ理由っていうのは、物事のプロセスを効率化したいなって思ったんですよ。日本で車とかものづくりが強いじゃないですか。でも、学生のときの考えとして例えば車そのものを作るよりも、車をより効率的に作る方法・プロセスを改善するような社会貢献をしたいって思ったんですよ。それって IT やデジタルの役目だと思っていて、IT 企業に就職しましたね。

山口: けっこう早い段階から IT 業界がいいなと思われてたんですか？

飯島: いやいや、そんなことはないですよ。実は迷走しちゃって、教育系、人材系などいろいろな業界を見ている中で IT 業界がいいなと思いました。僕、合計で50社くらい受けたんですよ。右も左もわからなかったから。皆さんはもっと自己分析してから動いていく方がいいと思います。無駄とは言わないですけど、50社受けるのは大変なんで（笑）

古川: 私の番かな。3年生のサマーインターンにたまたま興味半分で参加したんですよ。その頃は会社の名前は知っていましたが、繊維商社が何しているかと全然わからないまま、とりあえずインターンに参加してみました。それで、商社の説明や、実際の業務に関する話をきいたり、何人もの先輩の社員と話したりする中でどんどん会社のことが好きになって・・・（照）。もともと BtoB（Business to Business）の営業をしたいとは考えていたのですが、『商社は人なり』といわれるようにメーカーのようにモノを持たない商社だからこそ、自分自身の力が良くも悪くも試される商社での働き方に魅力を感じました。自身で商流を組み立てられるということも、商社営業のやりがいの一つです。製品を一つ作るにしても『何の』『どこの』素材を使って、『どの』工場で加工をして・・・など、商売の枠組みを組み立て、司令塔として全体がうまく回るようにコントロールできることに大きなやりがいがあります。商社にも総合商社と専門商社がありますが、その分野のスペシャリストになりたいなっていうので、専門商社を選びました。3年の夏に自社に一目ぼれしたのですが、そこで絞り切らず、就活が本格化するまでは他の業界もチェックし最終的にきちんと納得して弊社を選びました。

山口: お二人とも幅広い業界を見られた上で、自分に合った企業を探されたんですね。

古川: そうねえ。自分の目で見てみないと社会人がどんなことをしているか、わからないしね。

早田: 私も昨日インターンに参加して合わないなと感じたので、幅広い業界を見ることが大事だなと思いました。

飯島: そういう感じたことを大事にしていけば、どんどん自分が何をやりたいたいのかが見えてくるかもしれないね。

古川: その合う、合わないなっていう気持ちをきちんと言語化できるようになるのが私は自己分析や業界研究だと思います。最初に感じる直感を大切に、『なぜこの会社は良いと思うのか』『なぜこの会社には魅力を感じないのか』をきちんと説明できるようになるのが、自己分析や深掘りができている状態なのだと思います。

山口: なるほど。合わないと感じて止めておくのではなく、理由までしっかり考えることが大事なんですね。

外資系ってイメージ通り実力主義？

飯島: 日系と比べての違いはわからないけど、実力主義だと思います。それを感じるのはまずお給料で、できるときはすごい高いし、できないときは皆さんが思っている以上にすごく低いで

すね。だから、多く貰えるときは、これは慰謝料なんだって思うように最近はしています（笑）。お給料の面で差があることは、ネガティブに聞こえたかもしれないけど、成果で正しく評価してくれるってことですよね。どのような価値を社会や会社、チームにもたらしたのか、そういう目で見られているということはすごく公平だと思っています。その公平さが感じられるのは昇進で、僕自身はまだなんですけど、僕の上の人たちを見ると、若いときに既に部長や理事として活躍されている人もいます。

山口：なるほど。飯島さんはもともと外資系志望だったんですか？

飯島：いや、そうではなかったです。でも今振り返ってみると、海外に行きたい気持ちがあるなら日系企業がいいと思います。なぜなら、外資系企業って海外が拠点で日本の企業はあくまで日本の販売店なんです。もちろん、研修など海外に行く機会は多くあるんですけども、もし海外で第一線で働きたいなら日系企業に行く方がいいと思いますよ。

古川：たしかに。それは私も就活しているときは知らなかったな。

飯島：外資系の方が海外に行くイメージがあると思うんですけど、実際は逆ですね。でも、研修も全て英語だったし、日常業務でも英語をよく使っています。

学生と社会人の違いは？

飯島：ぶっちゃけあんまり変わった気がしないかな。

早田：飯島さんは、学生の頃からしっかりしてはりそうですね。

山口：たしかに。

古川：うん、留学中も行動範囲広がったよね。

飯島：あ、でも変わったとしたら内面かな。同期が大切だなって感じます。社会人になってからも会える同期がいるって良いことだなって思います。

古川：私は学生の頃はサークルにも入らず、学内での行動範囲が狭かったのですが、社会人になってから広がった気がします。営業をしていると、国内外問わずいろいろなところに行けていろいろな人に会えて、すごい楽しい。メンタルは、もともと弱いわけではなかったけど、社外人になっていろいろな経験をしていくうちに成長したかなとは思いますが。今の仕事を通して、人として磨かれていますね。

山口・早田：なるほど。

山口：お二人とも営業ですが、お二人とも営業を希望されていたのですか？

古川：はい、私は営業を希望していました。

飯島：僕は最初はエンジニアになろうと思っていたんですけど、無理だなと思って（笑）

早田：プログラミング勉強されていたんですか？

飯島：一時めっちゃ勉強していました。でも、プログラミングってやった分の量で評価されると当時は感じました。一方営業はやったことの量ではなく、成果・価値をを評価されるんですよね。そのような働き方の方がやりがいを感じると思ったので、営業を選びました。

早田：なるほど。自分がどういう働き方でやりがいを感じるか考えることが大事なんですね。

キャリアプランは？

古川：3年目ってまだ人生でいうと経験値的には小学生くらいのものなのですよ。まずは目の前の仕事をきちんと最後まで遂行して、自分の担当している仕事の精度を上げるのが目標です。せっかく GC で英語を勉強して自身の武器としてもっているわけですから、今の働き方のようにならずと海外と関わりながら働きたいですね。コロナ禍になる前に、海外研修には行けたので

すが、それっきり海外出張にも行けてないので海外に行くのも楽しみです。これはやっぱり GC の卒業生としてのアイデンティティみたいなものが影響しているのかな。10年先の事とかは正直、今の目の前のことに必死で全然想像できないな～。

飯島：僕は将来的には教育者になりたいと思ってます。そもそも社会人を経験してから教育者になりたいと考えて就職しました。今は IT 業界にいたので IT を広めるような教育者もありかなと思っています。いずれにせよ、教育関連に本格的に進む前に早めにマネジメントとかも経験したいと考えてます。

山口：なるほど。社会に出てからも教育者になりたいという夢は変わらないんですね。

最後に GC 生に向けてメッセージ

飯島：学生の頃の繋がりは、時がたつとより大事になると思っているので、多くの人と繋がってください。

古川：GC 生って、行動力がある人が多いと思いますし、人と繋がるのが好きな人が多いと思います。その気持ちを忘れずに就活生という特権を活用してたくさんの人と対話し視野を広げたいので、自分の将来やりたいことを見つけて行って欲しいです。いろいろな業界の社会人と話せるのは就活生の特権ですので、OBOG 訪問等でいろいろな社会人のいろいろな価値観に触れてみるのも楽しいですよ。就活は大変ですしストレスもたまりますが、ポジティブに捉えて楽しんで、乗り越えてください。

山口：就活に関して不安を抱いていたんですけど、お話を聞いてモチベーションをもらえました。ありがとうございました！

早田：社会で活躍されているお二方からのお話を聞いて、幅広い業界を見たり、OBOG 訪問をしたりと行動に移していこうと思いました。ありがとうございました！

(早田 千展・山口 真穂)

2021年度卒業研究タイトル

—英語コース—

Advanced Seminar 2-① (担当 松本啓子)

池田 奈保子	Sustainable Tourism in Awaji Island
川口 美結	Authenticities of Tokyo
河本 明星	Retro Tourism of Onomichi
桐山 萌	Staging Okayama Authenticity
小早川 理沙	Malama Hawaii: What Hosts and Guests Practice to Keep Beautiful Islands
小林 佑輔	New Contents Tourism of Okazaki
栗岡 花野	Staged Exoticism of Kobe
前田 綾香	Post-colonial Tourism in Hong Kong and Macao
前川 愛梨	Ginza Onsen: The World of Taisho Roman
小野 翔太郎	Authenticities in Kyoto by the Sea
空田 慎平	Challenges and Prospect of Dark Tourism in Hiroshima
山下 柊也	Two Images in Okinawa Tourism
米澤 勇太	Media Influence on Kamakura Tourism
吉岡 美咲	Staged Authenticity of Shirahama Beach Resort

Advanced Seminar 2-② (担当 玉井史絵)

藤井 沙耶加	Hidden Biases and Discrimination against Women in <i>The Intern</i>
久保瀬 七奈	The Positive and Negative Impacts of <i>Baby Driver</i>
松田 雄大	A Nihilistic Lifestyle in the Crime Comedy Movie, <i>Pulp Fiction</i> : Quentin Tarantino's Expression of American Nihilism
道田 澄花	The Representation of Beauty in <i>Beauty and the Beast</i>
溝上 瑛世	A Consideration of Traditional Japanese Values: <i>Konjyo</i> in Modern Japanese Society through <i>Battle Studies</i>
大西 萌寧	What is a Child?: The Representation of Children in <i>Leon the Professional</i>
尾添 慎太郎	The Representation of Different Types of Justice in <i>My Hero Academia</i>
佐藤 萌	The Representation of Family in <i>Shoplifters</i>
関岡 真子	The Representation of Food Culture in Banana Yoshimoto's <i>Kitchen</i>
津田 愛華	The Representation of Identity in Toyoko Yamasaki's <i>The Son of the Earth</i>
辻野 弥優	For Gender-Equal Society: A Study of <i>Kim Jiyoung Born in 1992</i>
山川 千穂	What is behind <i>Spirited Away</i> : Impurity and Purification
山本 沙季	The Representation of Japan Seen in Johnny's Songs
山村 侑也	How Leadership Theories are Represented in <i>Kingdom</i>
大月 良美	What <i>Anne of Green Gables</i> Gave to Japanese Women after the War

Advanced Seminar 2-③ (担当 寺西隆弘)

- | | |
|-------|--|
| 林 龍太郎 | Metaphorical Thoughts in Japanese Comic Books: Cultural Impact on Figurative Expressions in Shingeki no Kyojin (Attack on Titan) |
| 西村 弥空 | The Effect of Metaphor on Social Issues in Japan: Figurative Expressions in Sayaka Murata's Fiction |
| 小江 優希 | A Study of Metaphorical Understanding in Shūsaku Endō's Christian Story Novels |
| 岡田 直也 | A Contrastive Analysis of The Role of Animals in Grimm's Fairy Tales and Japanese Folk Tales |
| 大塚 淳平 | A Contrastive Study of Metaphorical Expressions in High School Baseball and Professional Baseball in Japan |

Advanced Seminar 2-④ (担当 UCHINO Crystal)

- | | |
|---------|---|
| 阿部 美柚 | Possible Policies and Legislation for Successful Inclusive Education for Students with Special Educational Needs |
| 虻川 祐斗 | Japanese Internment, Racism, and Baseball in Canada |
| 藤本 麻有果 | Entertainment and Intimacy in Japan-South Korea Relations |
| 星野 蓮 | Companion Animal Welfare: A Comparative Analysis of Abandonment and Protection in Japan and Germany |
| 昆 ゆい奈 | American Popular Music From the Perspective of Race |
| 久米 武蔵 | The Shifting Politics of Vehicle Electrification |
| 迎山 千生 | The Influence of the "Act on the Promotion of Efforts to Eliminate Unfair Discriminatory Speech and Behavior Against Persons Originating Outside Japan" |
| 中根 楓賀 | Popularizing the Contraceptive Pill: a Comparative Analysis Between Japan and France |
| 沢井 なな | Economic Inequality Between Black and White Americans from the Perspective of Social Capital |
| 千賀 遼 | The Rise of the Chinese Luxury Market and Social Stratification |
| 高谷 翼 | Voter Mobilization by the Alternative for Germany in the 2017 Federal Election-- From the Perspective of Changing Political Cleavages |
| ウッド 旺寿加 | The Challenges Confronting Foreign Students in the Japanese Education System |
| 山崎 帆純 | Going Left; The Polarization of Political Interest by Generation in the United States |
| 豊田 大騎 | Analysis of Contemporary Japanese Politics: Why Does the Liberal Democratic Party Keep Winning the Election? |

Advanced Seminar 2-⑤ (担当 竹田宗継)

鋤柄 裕大	Analyzing Banksy's Communication Strategy - Anonymity -
船橋 草太朗	Experiential Value of Seeing Films in Cinemas and Its Impact on Promoting Industry, Culture and Local Community
本田 智也	A Study on the Effectiveness of TV Commercial Songs in the Digital Age
家村 麻唯	The Influence of National Character on Campus Fashion - Comparison of Female Campus Fashion Between Japan and Canada -
木村 有沙	How Japanese Companies Should Promote Smart Cities in Vietnam - From the Perspective of Managing Co-Creation with Local Citizens -
森山 詞温	The Effectiveness of Servant Leadership in Project Based Learning at Universities
織田 実彩	Translation Strategy of English Subtitle to Communicate Cross-Cultural Elements - Analysis of English Subtitle in the "Spirited Away" -
佐藤 優気	The Impact of Fast Fashion Brands' SDGs Contributions on Japanese College Students' Brand Image and Purchasing Decisions
塩田 和也	Analysis of Demerits in Viewing Films at Faster Speed and True Values in Viewing Films at Normal Speed
高畑 菜摘美	Comparative Study of Self-Disclosure Between Japanese and Chinese University Students at Their First Meetings
上村 真奈美	Employee Localization at Japanese Companies in China - Establishing Suitable Personnel Assessment System for Chinese White-Collar Workers -
渡邊 悠太	Analysis of Effects on Sports Sponsorship Based on Meaning Transfer Model - Case of Tokyo 2020 Olympic Games -
山田 あずさ	Awareness of Fair Trade in Japan and its Future Prospects
山田 汐莉	The Effect of Dubbing on Impression of Movie Characters by Viewers - Case Study of Disney's Live-Action Film, Aladdin -
幸 沙弥香	Correlation Between Fashion Trends Created by SNS Influencers and Collectivism - Cross-Cultural Study of Purchasing Behaviors in Panama, Japan, and Canada -

Advanced Seminar 2-⑥ (担当 長谷部陽一郎)

萩原 虹七	Code-Switching of English-Japanese Bilingual Speakers
北山 梨里佳	Metaphor Analysis in the Inaugural Addresses of American Presidents
古瀬 茉志保	What is Good Translation? A Case Study of Translated Picture Books for Children
増田 歩華	Gender Metaphor and Gender Ideology: Chronological Changes in Cosmetic Advertising
実熊 真吾	A Speculation on the Relationship between Theory of Mind and Comprehension of Indirect Speech Acts
西村 悠友	Analyzing the Impact of Rhetoric in Political Texts: A Case Study of State Leaders' Speeches under Emergency Situations
大上 次史	Past, Present, and Future of Gendered Language
小野田 智哉	Subjectivity in Japanese and English: A Case Study Comparing a Japanese Novel and its Translation in English
太田 帆夏	Metaphorical Aspects of Discourse Markers
田久保 秀真	An Investigation on Translatability of Rhetorical Expressions from a Linguistic Point of View
所 彩音	Effectiveness of Onomatopoeia in Advertising Expressions
山下 翔也	An Analysis of Time-Related Descriptions from a Perspective of Temporal Metaphors

Advanced Seminar 2-⑦ (担当 中田賀之)

小林 未侑	Influence of Self-Regulated Learning on Online Learning Satisfaction: A Case of Japanese University Students
栗田 健吾	The Relationship between Work Motivation and Personality of University Students
森 京香	Influence of Hedonic and Utilitarian Motivation on Buying Behavior in Online Shopping: A Case Study of Japanese University Students
村上 菜々子	The Relationship between Attitude toward Best Friends and Self-Esteem
村上 紗英	The Effects of Self-Determination on Motivation Style in Job Hunting: A Case Study of Japanese Four-year University Students
中西 咲貴	Influence of Experiences of Being Praised and Told-off by Others on Motivation Style: A Case Study of Japanese University Students' Part-time Jobs
重松 佐千代	Differences in Self-affirmation between Students from a Co-educational High School and Those from a Girls' High School
白木 ゆき	Japanese Students Influenced by a Study Abroad Experience: An Observational Learning Perspective
染矢 麻佑	The Effect Self-Esteem Gives to What University Students Wear
田中 瑛斗	Relationship Between Self-Esteem and SNS Addiction: Japanese University Students' Motives for Using SNS
谷口 洋斗	How Young Japanese People are Consumer Ethnocentric
植田 唯暉	The Relationship Between Pressure and Performance in Soccer
山崎 水緒	The Relationship between Self-compassion and Eating Habits: Insights from a Case Study of Female College Students in Japan

—中国語コース—

専門演習 3-① (担当 内田尚孝)

- | | |
|--------|--|
| 木下 雄斗 | 中国のNEV産業の発展に関する研究 |
| 堀 竜盛 | 中国の食糧自給に関する研究 |
| 今釘 蘭 | 台湾政権と中国統一政策に関する研究—「一国二制度」による統一は可能か— |
| 川口 愛美 | SDG s 達成に向けた日中脱炭素政策に関する研究—国別削減方式で持続可能な社会は実現するのか— |
| 熊谷 理沙子 | 在日華僑の民間交流に関する研究—神戸華僑を中心に— |
| 永尾 垣 | 日本の戦後補償のあり方に関する研究—ドイツの戦後補償と比較して— |
| 大橋 奈桜 | 日中国交正常化プロセスにおける民間交流に関する研究—岡崎嘉平太・廖承志を中心に— |
| 湯ノ口 涼香 | 中国における都市化と都市計画に関する研究—上海・浦東新区を中心に— |

専門演習 3-② (担当 郭 雲輝)

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 正田 藍 | 「オタク」と「現代」の関わりについての考察—「宅」使用例を中心に— |
| 梶原 奎汰 | 「犬」に関する日中ことわざの比較研究 |
| 中西 紗唯 | 映画タイトルの英日中対照研究—事態把握の視点からディズニー作品を中心に— |
| 西川 実佑 | 味覚形容詞による比喩表現の日中比較と考察 |
| 岡田 ひろな | 日本と中国における「女子力」イメージの違いとその要因 |
| 大迫 礼乃 | 日中若者言葉の比較研究—ネット語を中心に— |
| 李 明翠 | 三人称代名詞における虚化現象 |
| 白猪 萌奈 | 海外ドラマ翻訳から見る日中敬語表現比較—ホームカミングシーズン1を例に— |
| 曾根原 好起 | 日中両語における数字を含む四字熟語と数字イメージの対照研究 |
| 山下 佐和花 | 日本語からみる中国語の負の感情形容詞における類義語の比較 |

専門演習 3-③ (担当 中西裕樹)

梁本 有華	清末期中国における纏足に関する意識の変化—『纏足物語 三寸金蓮』を手がかりに—
安藤 千葉美	中国進出に成功する企業・苦戦する企業
伊藤 琴音	日中間のエンタメ世界におけるオタク文化
伊藤 里帆	ピクトグラムの日中比較
河原崎 彩	“把”構文はなぜ難しいのか
北村 亮磨	マンガの翻訳から見た日本語と中国語の感動詞について —「不」と「哇」を中心に—
小林 天湧	現代中国映画から見た日本像・日本人像
村田 美紀	マンガにおける日中両語のオノマトペの翻訳手法
西川 朋花	中国語圏の方言地域別の外来語特性
岡田 理奈	台湾語に残存する日本語
渡邊 るか	中国消費市場を牽引するEC市場

専門演習 3-④ (担当 唐 顥芸)

松灘 歩	日本と台湾の産後ケア「坐月子」について—産後うつを中心に—
藤原 創	雑記から見た内山完造の人物像と日中友好活動の動機に関する考察
萩原 福乃	2010年以降の中国における日本映画の受容
韓 侑奈	華僑アイデンティティの変容について—中華学校を中心に—
細川 栞奈	新疆での漢語の普及を妨げる要因—内モンゴル自治区との比較を通して—
石田 琴実	新聞見出し分析からみる日本メディアの中国報道と日本人の中国イメージ形成について
菅野 愛名緒	中国化粧品市場における今後の日本化粧品のあり方について
小川 奈々香	中国における映画『嫌われ松子の一生』の受容について
進藤 あん	1990年代後半の旗袍ブームがなぜ衰退したのか—漢服ブームとの比較を中心に—
植村 美宇	台湾におけるモスバーガーの発展—問題への取り組みとメニューからの考察を中心に—

ー日本語コースー

専門演習 2-① (担当 脇田里子)

安 世恩	結婚のマナーに関する日韓対照研究
趙 文英	在日コリアンへのヘイトスピーチ対策に関する研究
朴 素賢	鉄道会社の公衆マナーに関する研究—注意書きと啓発ポスターを中心に—
施 真君	京都の公共サインに対する外国人の視認性の研究
尹 智敏	やさしい日本語の認識差に関する研究
尹 政範	日韓キャラクタービジネスモデルの対照研究
尹 ソンイ	日本の100円ショップのインバウンド人気要因に関する研究

専門演習 2-② (担当 須藤 潤)

安 曙希	SNSでのコミュニケーション—雑談の構造とスタンプ使用—
陳 曉麗	中国語を母語とする日本語学習者の「同形異用語」の誤用について—日本語母語話者と韓国語を母語とする日本語学習者との比較—
蔡 紫盈	日本語学習におけるカタカナ語の表記について—「拍感覚」との関係性—
魚 支熙	日本語学習者の漢字及び語彙習得について—韓国人日本語学習者は漢字にどのような対応するのか—
全 胤辰	日本語学習者における自称詞へのイメージとその使用の様相—日本の大学に在学している日本語学習者を中心に—
金 随玟	日本語母語話者の外国人学習者に対する「日本語上手ですね」をめぐって—学習者の日本社会への統合度を中心に—
李 俊濤	日本小説の韓国語翻訳版から見た韓国語翻訳の特徴—住野よるの小説の日韓翻訳をもとに—

WONG KWOK SING

	英語母語話者の日本語学習者とカタカナ語の学習—英語母語話者の日本語学習者の英語知識による英語由来の外来語の綴りへの影響—
余 偉傑	日本語学習における同時双方向的な自律学習支援方法

専門演習 2-③ (担当 鈴木伸子)

ペットヌー マイカ	タイの孤児院『子供の村学園』の学園で生活する子供の視点から見えるもの—子供の村学園における「自由」の中の子供たちの成長—
程 賀英	日本のテレビメディアにおける「オネエキャラ」の様相と若者の認識の関係—ユーモアに秘められた差別を中心に—
李 成熙	Instagramのクチコミが購買行動に与える影響—日韓女子大学生の比較分析から—
キム ミジン	RPGゲーム（ロールプレイングゲーム）のポジションにおけるゲームプレイヤーの認識調査—ジェンダーの視点より—
呉 恵英	プロアナと外部集団のコミュニケーションにおける研究—開放的なSNSを中心に—
ピッツォ サラ	日本の中小企業が海外マーケットで必要とするブランディング・マーケティング戦略—RELIER 81のブランドを対象にして考察する—
高 乗賢	日韓の20代女性がメイクアップ化粧品の中で好む色の比較分析

あとがき

2021 年、新型コロナウイルスが発生してから 1 年がたちました。全世界の数百万人がコロナにより死亡し、職を失い、教育も否定的な影響を受けました。留学が必須であるグローバル・コミュニケーション学部生にとって大変な状況の連続でしたが、その中でも新たな学びを追求すると、このような気づきが得られました。

一つ、科学の大切さ

コロナは、現代の技術が持つ多くの肯定的な面を見せています。非対面によって、人々と疎通することがいつにも増して容易になったからです。技術は仮想会議を生産的かつ効率的に作るために急速に改善され、さらには人々の新しい出会いの場となっています。今年の夏に開催された GC 学部交流会がその例だといえるでしょう。また、コロナが始まってから約 1 年でワクチンが開発されました。このような高度な技術作業において、1 年間は記録的な速度と思われます。これを通じて、再び科学の発展速度に驚きを感じました。

二つ、我々はひとつであること

私たちは最終的に相互関連性があります。国籍、性別、人種、年齢を問わず、マスクを着用して人との接触を避け、ワクチン接種を行うなど、コロナ感染防止といった同じ目標に努めているからです。コロナは奥深い方法でこの事実を強調していることがわかりました。

このように、形は変わっても学生の身分として、学びに忠実になろうとする自分の役割に最善を尽くした結果、11 号にも GC 学部の今を発信することができました。

第 11 号を手にとっていただき、誠にありがとうございました。

Cosmos 第 11 号 編集委員長 金 娜馨

2021年度*Cosmos*編集委員会

英語コース	3 年生	藤田 菜摘、池田 由芽、早田 千展、山口 真穂
	1 年生	久木 楓佳
中国語コース	1 年生	若宮 奈々、近藤 朱夏
日本語コース	3 年生	金 娜馨、Nguyen Duc Mai Trang、呉 宙珰、宋 玆抒 宋 抒娟、王 財輝
	2 年生	李 彩榮、李 基勲、徐 多永、姜 東龍
	1 年生	趙 哲驍

グローバルコミュニケーション学会

運営編集委員会・役員会

松木 啓子、山本 妙、鈴木 伸子、DANA JOHN LINGLEY

Cosmos 第 11 号

2022年3月15日発行

発行 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1 - 3
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部内
Tel (0774) 65-7491 Fax (0774) 65-7069

編集 2021年度 *Cosmos* 編集委員会
グローバル・コミュニケーション学会 運営編集委員会

印刷 株式会社あおぞら印刷
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15

